

研究紀要

1986

財團法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団

目 次

=講演録=

古墳時代の大刀 小林 行雄………(1)

埼玉県大宮台地の先土器文化 水村孝行 田中英司 西井幸雄………(21)

縄文時代中期前葉の住居形態 石塚和則………(64)

北武藏における古瓦の基礎的研究Ⅰ

星間孝志 宮 昌之 藤原高志

木戸春夫 赤熊浩一 ………………(97)

埼玉県大宮台地の先土器文化

水村 孝行・田中 英司・西井 幸雄

はじめに

第Ⅰ章 地理的位置づけ

1 大宮台地の地理的特色

2 大宮台地のローム層と石器出土層位

第Ⅱ章 大宮台地の先土器文化

1 大宮台地における先土器時代研究略史

2 遺跡分布

第Ⅲ章 先土器時代資料と編年

1 遺跡・遺物の概要

2 石器群の特徴

3 編年上の問題

おわりに

はじめに

大宮台地という限られた地理的地域の内で、そこで発見された先土器時代石器群をいくつかの視点から分析、検討し、現状を正確に把握した後、今後の研究の方向性をさぐることが本稿の目的である。

大宮台地の先土器時代石器群の調査・研究は、隣接する武藏野台地や下総台地等に比べ、やや出遅れた感はある。しかし、近年大宮台地においても後述するような良好な資料が蓄積されつつあり、周辺諸台地との比較、検討もできうる状況にある。長い間の研究の蓄積とここ数年の調査成果によって、大宮台地も先土器時代研究の主要舞台としての仲間入りをはたしつつあるといえよう。

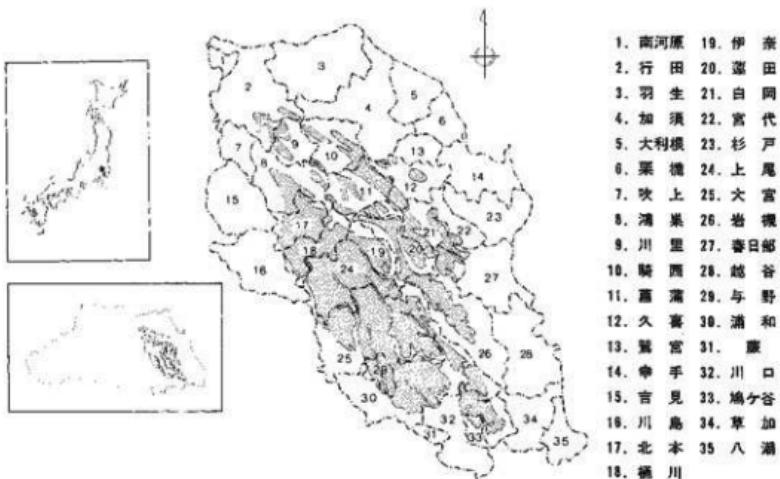
なお、本稿では用語等についてはできるだけ統一するようつとめたが、執筆者各人の基本的考え方もあり、細部については必ずしも統一されていない。御寛容を願うしたいである。

(水村孝行)

第Ⅰ章 地理的位置づけ

1 大宮台地の地理的特色

大宮台地は埼玉県平野部のほぼ中央部に位置し(第1図)、西を荒川低地、東を中川低地、北を妻沼、



第1図 大宮台地の位置と周辺の市町村

加須低地に開まれている。台地の中には元荒川、綾瀬川、芝川(見沼代用水)、鴻沼用水、鴨川などの大小河川があり、これらの開析によって台地が分離している。そのため大宮台地はさらに地域ごとに分かれ、西から大宮台地(狭義)、安行台地、蓮田台地、岩槻台地、白岡台地、慈恩寺台地と呼ばれている(第2図)。台地の標高は最高点が北本市高尾付近で約30mを測り、他は13m~16mを測る。全体としては加須低地に向かって緩やかに傾斜している。

大宮台地(狭義)は荒川と綾瀬川によって囲まれ、南北8kmと大宮台地の中心的台地である。台地はさらに芝川によって安行台地に区別されている。台地の中には鴨川、鴻沼用水、笛目川、芝川などによって開析され、樹枝状の谷系が発達しており、遺跡はこれらの谷の両側に多く見られる。地形面は北本市高尾の最高点付近は下末吉後期面(成増面)に対比され、他の地域は武藏野面に対比される。

安行台地は大宮台地(狭義)と分離しておらず、細長く伸びたように見える。綾瀬川と芝川に囲まれており、標高は川口市木曾呂付近が最高点20mを測り、他地帯は12m~14mを測る。地形面は安行台地が広がる部分は下末吉後期面(成増面)に対比され、大宮台地(狭義)との付根の部分は武藏野面に対比される。

蓮田台地と岩槻台地は大宮台地(狭義)と綾瀬川によって分離されている、南北に細長い台地である。この台地の北部を蓮田台地と呼び、南部を岩槻台地と呼んでいる。標高は12m~15mであり、高虫付近の15m~16mと蓮田駅付近の16mが局的に高くなっている。また、南東部は笛久保12m、尾ヶ崎10mと低くなっている。地形面は武藏野面に対比される。白岡台地は蓮田台地の東側に位置し、元荒川によって分離されている。標高は蓮田市南新宿付近が最も高く17m~18mであり、北方または南西方に低くなっている。地形面は武藏野面に対比される。

慈恩寺台地は白岡台地の東側に位置し、南北に長い。標高は全体に北方へ行くほど低くなっているが、最も高い花積付近で18mを示し、北端の野中付近では9mになっている。地形面は武藏野面に対比される。

以上、大宮台地を地域ごとに見てきたが、次に関東平野の中での大宮台地の位置を見ていくことにする。関東平野における台地は西から相模野台地、武藏野台地、大宮台地、下総台地の順に並んでいる。標高は武藏野台地と下総台地の最高点がそれぞれ100mを越えるのに対し、大宮台地は最高点で30mのを測り、全体に12m～16mと低位であり、武藏野台地と下総台地に挟まれた盆地のように見える。また、加須地域を中心として現在も沈降運動が続いている、基盤（関東ローム面）が埋没し、台地が島状になっている。

（西井幸雄）

2 大宮台地のローム層と石器出土層位

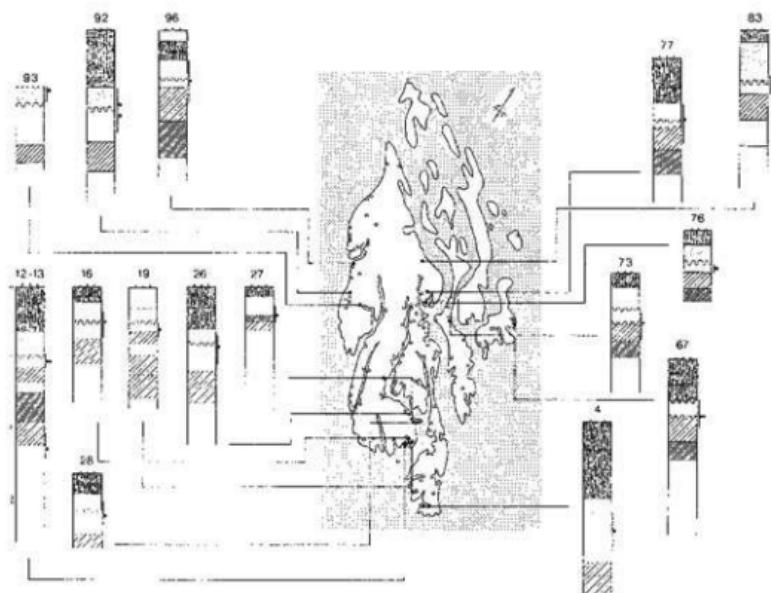
第2図 大宮台地区分図

大宮台地は標高10m前後の位置にあり、沖積面との比高差はあまりない。沖積土層によって覆われている部分が多く、切れぎれの状態で沖積面のすきまからローム台地が顔をのぞかせている。ローム層のこうした状態は特に北・東部において著しく、南部地域に先土器時代遺跡の調査例が集中することは、ローム面の遺存状態による点の大きいことによるのかもしれない。

先土器時代遺跡の調査例は今のところ北部を除く地域に集中している。ここでは大宮台地の各地域を、川口・浦和市を中心とした南部、荒川に面した西部、それらを除く東部の大きく三つに分けられて述べてみたい（第3図）。

南部はローム層の堆積の厚い地域とされている。しかしその状態は隣接する遺跡間でも一様ではない。浦和市内を例にとると明花向（遺跡No12・13）・井沼方馬堤遺跡（遺跡No19）のように二枚の黒色帯が確認できた遺跡は少ない。黒色帯が一枚だけ確認される場合には通常それは立川ロームの下面にあたる第二黒色帯であることが多い。第一黒色帯は同一地域内においてもその成因に差があるのだろうか。しかし黒色帯が一枚のみしか検出されていない西谷遺跡（遺跡No16）は、明花向遺跡と隣接する位置にある。西谷では第二黒色帯以降の厚さは明花向遺跡の半分ほどである。第一黒色帯の検出には第二黒色帯以後のローム層の状態による点が大きいことが伺える。と同時に大宮や下総台地の一枚の黒色帯が、第一と第二黒色帯の圧縮されたものとする従来の考え方にも再検討を加える必要があろう。また第二黒色帯においては、浦和市井沼方馬堤遺跡や川口市天神山遺跡（遺跡No4）では上下二枚に明確に分離できない。それに対して明花向遺跡では上部の黒色帯の色調が濃く、下部で薄い状態で分離された。色調の点では大宮台地南部地域のみならず、上部よりも下部黒色帯の色調が濃いことが一般的な他地域と比較して、特記すべき相違点である。さらに明花向遺跡では第二黒色帯下の褐色土層を挟んで、暗褐色土層が位置する。この層については報告書中に





第3図 層序と石器出土層位

も述べたが、大宮台地のみならず武藏野台地や下総台地においても広く認められる可能性がある。近年調査された国分寺市武藏台遺跡ではこれらの層位からも石器が出土したことが報告されている。層位を日安にすれば本県でも第二黒色帯よりもさらに下位にも、石器群が包含されている可能性がある。ただしそれらが第二黒色帯中の石器群よりも型式的に古期に属するのかはまた検討を要するところであろう。

荒川に面する上尾市を中心とした地域を仮に西部としておく。この地域ではまだ調査例が少なく、ローム層の観察も十分に行なわれていない。上尾市殿山遺跡（遺跡No.96）ではハードローム層が薄く、場所によっては確認できず、ソフトロームからすぐ黒色帯へと移行していた。こうしたソフト化の進行は西部のみならず東部地域にも共通するようである。殿山遺跡では黒色帯が1m前後と厚く、上部の色調が薄く下部で濃くなる。同じ荒川沿いの天沼遺跡（遺跡No.92）では黒色帯は一枚のみ報告され、逆にハードローム層は殿山遺跡の三倍以上の層厚となっている。ソフトロームから黒色帯下部までの層厚では両遺跡ともほぼ等しいため、天沼遺跡のハードローム層中に黒色帯上部が分離できる可能性がある。

綾瀬川沿岸から元荒川を越える沖積低地を望む東部地域では、近年特に調査例が増加してきた。綾瀬川沿いの伊奈町伊奈氏屋敷跡（遺跡No.76）・久保山遺跡（遺跡No.77）や元荒川沿いの大宮市鷺山遺跡（遺跡No.43）の層序はほぼ等しい。全体にソフト化が激しく、ハードローム層は薄い。第二黒

色帯は50cmを越える厚さをもち、上部で黒味が薄く下部で濃い。下総台地を眼前にする宮代町前原遺跡（遺跡No.67）でも同様の傾向があるが、ソフト化の進行はより著しい。第二黒色帯の層厚は50cmを越えて、久保山や鷺山遺跡に一致する。

遺物は南部の明花向遺跡では第二黒色帯下よりも出土している。明花向例は大宮台地最下層の出土例である。おそらく今のところ最古期の石器群であろう。西部・東部ではまだ当該層位からの石器の出土はない。第二黒色帯上部では石器の検出されている遺跡はない。上尾市殿山や伊奈町久保山・大宮市鷺山・宮代町前原の各遺跡では黒色帯上部からも石器が検出されているが、これはソフト化の進行と関連するものと思われる。本来の包含層はより上部に位置するものと思われる。第一黒色帯を中心に出土する遺跡も当台地ではない。大宮台地の先土器資料は殆どがハードロームからソフトローム層を中心に出土する。しかし石器群の内容においてはナイフ形石器群の中でも、また尖頭器や細石器の出土例からしても、一時期ではないことは明らかである。その典型は宮代町前原遺跡のように切出形のナイフと砂川型式のナイフとが同一層位から出土する例に見ることができる。

大宮台地の層序は浦和地区の一部のように層が崩れ、層厚のある場合は少ない。全体にソフトロームと第二黒色帯が厚く、その中間の層が薄い。層の確定にも観察者によって異なることも予想される。石器群の大半はソフト化の進んだローム上部に包含されていることが多く、出土層位の対比によって異なる遺跡間の編年を行うことはむずかしい。

（田中英司）

第II章 大宮台地の先土器文化

1 大宮台地における先土器時代研究歴史

大宮台地における先土器時代研究の流れを、昭和40年頃を境に、仮にⅠ期、Ⅱ期の2時期に別けて通観してみよう。また、個々の遺跡については次章で詳しく触れるところがあるので、遺跡の羅列的な記述はせず、研究の大きな流れを略述することにする。

Ⅰ期は、分布調査による遺跡の発見と小規模な発掘調査が行なわれた時期といえよう。

昭和30年代は該期研究の全国的な傾向と歩調をあわせるように、県内では武藏野台地・大宮台地を中心に遺跡踏査が盛んに実施された。大宮台地では、主に上尾・桶川市以南の地域で踏査が続けられ、遺跡も相次いで発見されていった。しかし残念なことに、この時期県内には先土器時代に関する記述は少なく、台地全体さらに全県的にと分布調査の枠を広げるにはいたらなかった。

一方、昭和35年には加藤晋平氏らによって鳩ヶ谷市浦寺遺跡が発掘されている。この調査は、大宮台地における先土器時代遺跡調査の嚆矢であり、この調査により大宮台地のローム層中に学術的なメスが入れられたのである。この調査は対象面積も狭く、出土資料もさほど多くはないが、大宮台地の該期研究のうえで忘れてはならない遺跡のひとつであろう。その後、数年間は発掘調査が実施されないが、昭和42年には大宮市吉野原遺跡・浦和市えんぎ山遺跡などをはじめ、いくつかの遺跡から先土器時代の石器群が出土した。ただ、これらの調査は、他の時代の資料の検出を目的としたものであり、先土器時代石器群の検出に主眼を置いたものではなかった。しかし、これらの石器

群に着目し、当時としては大きな成果をあげた背景には、該期石器群に対する関心の高まりと共に、県内研究者の問題意識のあらわれとして評価できよう。また、このことは周辺地域の調査例の増加とともに、昭和41年に実施された所沢市砂川遺跡（第1次）の調査なども刺激になっているのであろう。この頃までを第Ⅰ期とするが、分布調査による遺跡の発見といくつかの発掘、それにもともなう、先土器時代に対する関心の高まりがみられた時期としてとらえられよう。

続く第Ⅱ期は、発掘調査例の増加と資料蓄積の時期であり、この頃から先土器時代に限らず、県内全域で各時代の発掘調査の数が急増する。

この時期、各地で調査が進む中、学生を中心とした研究グループ先史文化研究会による大宮台地の遺跡踏査が精力的に実施される。この一連の調査の成果は Prehistory 23号・24号誌上に発表されたが、若い研究者による積極的な取り組みは、県下の先土器時代研究に新しい活力を産み出してくれたといえよう。このような気運の中で、県下市町村教育委員会に専門職員として入ってきた人たちによって詳細な分布調査が実施され、遺跡の発見が相次ぎ、大宮台地の先土器時代研究にもわかに活気づいてきた。

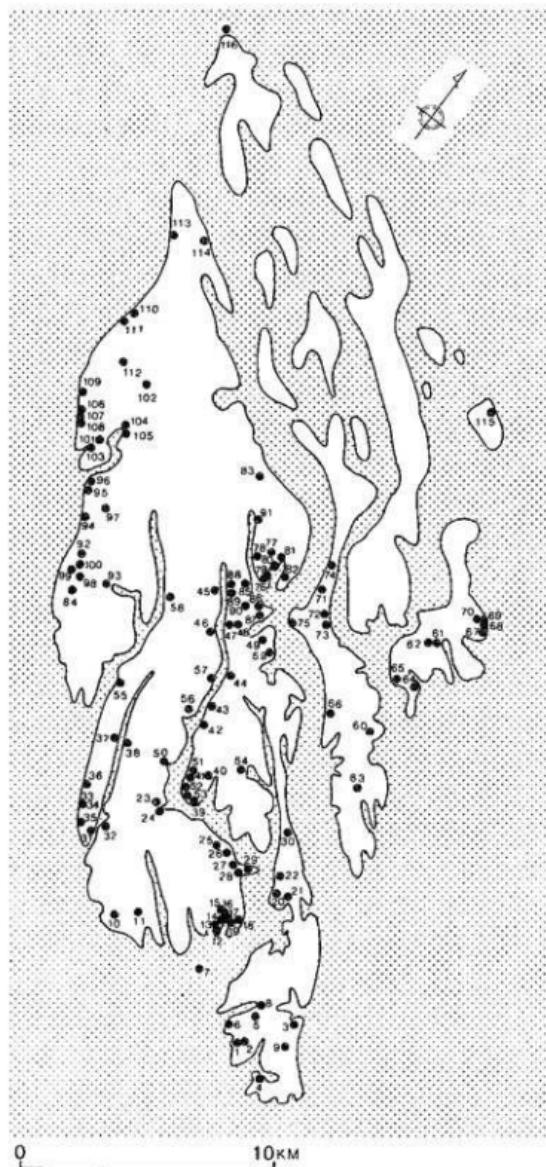
昭和50年代は、まさに調査の急増と資料の蓄積の時期である。55年以降だけで30件を越える調査が実施されていることをみてもこの頃の情勢がうかがえる。この数多い調査の中で、特に注目すべき発掘調査例をいくつかあげておこう。

まず、昭和52年9月に実施された上尾市般山遺跡の調査である。同遺跡の調査は当初、古墳と方形周溝墓の調査に主眼を置いていたものであったが、古墳の周溝調査の際、国府型ナイフ形石器が出土したことによってわかれに注目された。しかし、諸般の事情で該期石器群の追求は充分なされないまま調査は終結した。その後、若い研究者を中心とする石器研究会諸氏による問題提起と先土器時代研究にかける情熱によって、昭和55年同遺跡の該期石器群検出に主眼を置いた調査が実施された。その結果、III層からIV層にかけて国府型ナイフ形石器5点を含むナイフ形石器41点の他彫器、搔・削器等の石器群が出土した。国府型ナイフ形石器の検出は大宮台地のみの問題にとどまらず、関東地方における該期石器群を検討してゆくうえで、本石器群が重要な鍵となってくるであろう。

また、昭和55年には浦和市明花向A遺跡が調査されている。同遺跡からは2つの文化層が検出され、下層のものは第二黑色帶層中（VII・IX層）から出土したもので、現時点における大宮台地最古の石器群である。隣接する武藏野台地の富士見市、三芳町などでは類例がいくつか知られているが、大宮台地ではVII・IX層相当のものは他に検出されていない。先土器時代遺跡の調査が増加する傾向にある現在、より深層に眠る石器群の検出に期待したいところである。

一方、各地で調査がすすむ中、昭和54年には田中英司によって、埼玉県下の先土器時代研究の現状が簡潔にまとめられ、いくつかの課題が提示された。県下の該期研究がひとつの転期にさしかかったこの時期、今後の研究の指針をさししめす重要な提言があったにもかかわらず、その後該期研究にさしたる進展がみられなかったのは残念である。その後、大宮台地では調査も徐々に進み、遺跡の規模、石器群の内容などからみても他の諸台地と肩を並べることができるようになった。本稿が田中がかつて提示した課題の解決に少しでも近づければと考えている。

(水村孝行)



第4図 大宮台地の先土器時代遺跡

2 遺跡分布

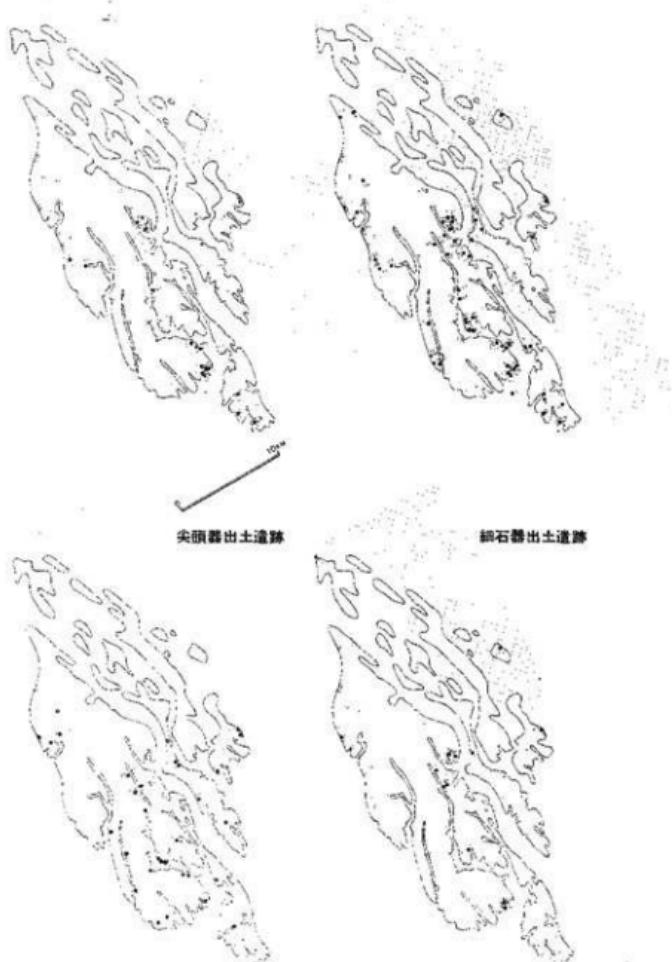
大宮台地における116箇所の先土器時代遺跡は荒川・綾瀬川・元荒川などの河川沿いに発見されている(第4図)。遺跡の密度は南部において濃く、北部では薄い。ローム層の遺存状態のよくない東部地域においても近年調査例が増加していることから、北部地域でも今後の精査によって検出できる可能性は十分に考えられる。

116箇所の遺跡のうち発掘調査によって石器の層位と面的な広がりが確認されたものは全体の一部にすぎない。まだ多くの資料が調査の手も加えられないままローム層深く埋もれていることになる。

遺跡のうち最も多いものがナイフ形石器を出土する遺跡である。これらは大宮台地全体に分布している。特徴的な石器が発見されずローム層中から剥片等が検出されたのみの遺跡もナイフ形石器の時期に含まれるもののが大半であろう。両面加工や片面加工の尖頭器も遺跡数は少ないが台地全体に広がっている。調査による所見ではナイフ形石器と尖頭器とが確実に共伴する

発掘調査遺跡

ナイフ形石器出土遺跡



第5図 時期別分布

例は当台地では今のところはない。採集されている尖頭器もすべてが先土器時代のものかは疑問である。おそらく縄文草創期に属するものも多いのであろう。細石器の検出されている遺跡も数少ない。すべて表面採集などによる二次的資料のみである。細石器資料を原位置で確認することは当台地のみならず県内先土器研究の課題でもあるが、なかなか有望な遺跡にめぐり会えない。ただ下総台地の風早遺跡の第III層の資料や浦和市井沼方の石器群のように、細石核や細石刃が乏しいかまたは全く含んでおらず、代りに大形の削器や石核の類を中心とする石器群も細石器の組成の一員であることが明らかになってきた。今後はこうした細石器以外の資料にも目を向けながら調査を進めて行く必要がある。

(田中英司)

第三章 先土器時代資料と編年

1 遺跡・遺物の概要

浦寺遺跡（第5図1～4、遺跡No.1）

所在地：鳩ヶ谷市浦寺大通133番地

立 地：本遺跡は芝川の西側、安行台地に位置する。

発掘調査は昭和35年に数日間行なわれた。その結果、ローム層中より剝片及び石核が18点検出された。資料的には貧弱なものであるが、埼玉県に於ける最初の先土器時代遺跡の発掘調査として研究史的意義がある。

ト伝遺跡（第5図5～11、遺跡No.3）

所在地：川口市西新井宿字ト伝

立 地：本遺跡は大宮台地の最南端、芝川の東岸に位置する。標高は約17mである。

調査の結果、C地点より石器集中が2箇所検出された。石器出土層位はハードローム層を中心に若干第一黒色帯とソフトローム層に見られる。第一集中地点からは5の尖頭器が出土している、石質は黒曜石である。第二集中地点からは7・9～11のナイフ形石器が出土している。9～11は横長剝片を素材とし、10は打面を残置している。先端角は鈍角で切出状を呈している。7は縱長剝片を素材とし、調整加工を左側縁に施している。先端に小剥離が見られ、欠損による再調整加工の可能性もある。

海道西遺跡（第5図12～18、遺跡No.8）

所在地：川口市大字石神海道西896番地他

立 地：本遺跡は芝川の東岸、安行台地に位置する。標高は約17mを測り、沖積面との比高差は約10m前後である。

調査の結果、石器集中が1箇所検出された。石器出土層位は第III層ソフトローム層下部から、第V層ハードローム層上部にかけてである。石器はナイフ形石器1点、砥石1点と数少ない。しかし砥石の出土した例は珍しく注意される。なお、12の尖頭器は出土地点が異なり時期を別にすると考えられる。

天神山遺跡（第5図19～25、遺跡No.4）

所在地：川口市大字赤井字台

立地：本遺跡は芝川の東岸、安行台地に位置する。標高は約10mを測る。

調査の結果、第IV層ソフトローム下部から第V層ハードローム上部にかけて、石器集中と砾群2箇所が検出された。石器はナイフ形石器2点と角錐状石器1点、搔・削器3点、石核及び砾器状の石核が1点が出土した。

松木遺跡（第6図1～14、遺跡No.28）

所在地：浦和市大字三室字松木

立地：本遺跡は芝川の西岸、大宮台地（狹義）上に位置する。標高は約15mである。

第一区、遺物集中は径5mぐらいの範囲に6箇所検出された。石器出土層位は第IV層いわゆるハードローム層を中心に、一部第V層第一黑色帯から第III層のいわゆるソフトローム層中にかけて出土した。石器は黒曜石が多用されており、ナイフ形石器・角錐状石器、削器がみられた。時期は從来武藏野台地の第IV層下部の石器群に対応すると考えられる。第二次調査では第一区の西北に石器集中が1箇所検出された。石器出土層位は第IV層ハードローム層上面から中位を中心としている。石器は先端部を欠損した黒曜石製の両面加工尖頭器と削器である。時期は第一区出土の石器群より新しいものと考えられる。

西谷遺跡（第6図14～22、遺跡No.16）

所在地：浦和市大字大間木字西谷1179番地他

立地：本遺跡は芝川の西岸、大宮台地（狹義）上に位置し、標高は約14mである。

調査の結果、第5区に遺物集中が3箇所検出された。石器出土層位は第III層ソフトローム層から第IV層ハードローム層中より出土した。石器は横長剥片を素材とした角錐状石器が主体であり、削器が少數見られた。石質は松木遺跡第一区とは異なり、安山岩・頁岩を使用している。時期は武藏野台地の第IV層下部の石器群に対比されると考えられる。

大間木内谷遺跡（第6図23～29、遺跡No.15）

所在地：浦和市大字大間木字内谷844番地他

立地：本遺跡は芝川の西岸、大宮台地（狹義）上に位置し、標高は約14mである。

調査によって第4区から石器集中が1箇所検出された。石器出土層位はいわゆるソフトローム層である。石器は縦長の剥片と削器が検出された。

明花向遺跡（第7～8図、遺跡No.12）

所在地：浦和市大谷口字明花2060番地他

立地：本遺跡は大宮台地の南端部に見られる、樹枝状の小台地に位置する。標高は約13mで、低地との比高差は7～8mを測る。

調査はA～C区の3箇所行われ、A・C区の台地縁辺部より先土器時代の石器集中が確認された。

A区（第7図1～9、遺跡No.12）

調査は台地の西側縁辺部において行われた。石器は第IV層いわゆるハードローム層と、第IV・IX層の第二黑色帯の下部を中心出土した。第IV層より出土した石器は3点のみで、表採資料を加え

ても、ナイフ形石器2点、彫器2点、剥片2点の計5点であった。

第VII・IX層では遺物集中が4箇所検出された。石器は搔・削器3点、彫器1点、細剝離痕のある剥片1点、石核6点、剥片140点、折断剥片127点の計242点である。製品は少ないが、良好な接合資料が得られた。接合資料は拡大の円碟をあまり打面調整を施さず剝離作業を行なうもの8、9と、大形厚手の剥片を素材とし、剝離作業を行なうもの(7)の二者があった。このような接合例は武藏野台地の第二黒色帯下にも認められる。本石器群は大宮台地において最も古い時期に位置づけられるものと思われる。

C区（第8図1～26、遺跡No13）

調査区は台地の北端部である。石器は第IV層いわゆるハードローム層を中心に出上した。遺物の集中は6箇所検出され、うち4箇所から良好な石器群を検出することができた。石器はナイフ形石器34点、石錐1点、搔・削器9点、細剝離痕のある剥片13点、敲石1点、石核19点、剥片147点、折断剥片80点、碎片117点、細石刃3点の計424点である。

細石刃1～3はすべてプライマリーな出土ではなく、細石核も検出されなかった。ナイフ形石器は34点と纏まっており、良好な資料である。4～13は先端角が鋭角的で、基端が平らか丸味を帯びた幅広の一群である。調整加工は刃縁側の基部、即ち側刃縁の加工は小規模か全く加工を施しておらず「二側縁風一側縁加工のナイフ形石器」である。14～19は先端角が90度に近く、概形が台形や方形を呈する。調整加工は一側縁に素材の打面や折断面をあてているものがあるが、両側縁に加工をほどこしているものも多い。石錐(24)は素材の末端に小規模な加工を施したものである。石核は正面を剥片剝離作業面とし、多方向からの剝離を行なった(25・26)と剥片を素材としたものが見られた。

井沼方馬堤遺跡（第8図27～29、遺跡No19）

所在地：浦和市井沼方字馬堤413番地他

立 地：本遺跡は大宮台地の南端部に見られる、樹枝状の小台地に位置する。明花向遺跡の北約0.7kmの地点である。標高は約14mで、低地との比高差は7～8mを測る。

調査の結果、台地の西側縁辺部から先土器時代の遺物集中が2箇所検出された。石器出土層位は第IV・V層いわゆるハードローム層から第一黒色帯にかけてある。石器は角錐状石器1点、ナイフ形石器2点、搔・削器1点、石核3点、剥片19点、折断剥片5点、碎片1点、尖頭器1点の計33点である。そのうち尖頭器(27)は表採である。

馬場北遺跡（第9図1～9、遺跡No27）

所在地：浦和市大字三室馬場2890番地他

立 地：本遺跡は芝川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約15m、沖積面との比高差は約9mである。

調査の結果、第2層ハードロームから第3層黒色帯にかけて遺物集中が一箇所検出された。石器は粗雑なナイフ形石器（3・4）と搔・削器（1・2・8）が出土した。また、表土中より横長剥片を素材としたナイフ形石器（5）が出土している。

宮前遺跡（第9図10～19、遺跡No17）

所在地：浦和市大字大間木字宮前1393～5番地他

立 地：本遺跡は芝川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約15mである。

調査の結果、チャート製の粗雑な大形両面加工の尖頭器が纏まって出土した。しかし、石器の出土層位が搅乱層であるため不確実な要素が多い。

大古里遺跡（第9図20～28、遺跡No26）

所在地：浦和市大字三室字大古里

立 地：本遺跡は芝川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約16mである。

調査の結果、第III層ソフトロームを中心に、一部第IV層ハードローム層にかけて、石器集中が2箇所検出された。石器はナイフ形石器、台形状石器、搔・削器などで、地点を離れて尖頭器が1点出土した。

井沼方遺跡（第9図29～37、遺跡No14）

所在地：浦和市井沼方字東谷2～1番地他

立 地：本遺跡は大宮台地の南端部に見られる、樹枝状の小台地に位置する。標高は約15mを測る。

調査の結果、石器集中2箇所と疊群2箇所が第3層ソフトローム層より検出された。石器は搔・削器を主体とし敲石・石核・剝片類が出土し、多くの接合資料が見られた。疊群2箇所はさらに幾つかの集中に区分することができ、良好な資料である。

真上3号遺跡（第10図1～2、遺跡No35）

所在地：与野市上峰3丁目

立 地：本遺跡は鴨川の東側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約14mである。

図示した石器は2点とも表採資料である。1はチャート製の搔器、2はチャート製のナイフ形石器である。

陣屋一号遺跡（第10図3、遺跡No33）

所在地：与野市上峰1丁目

立 地：本遺跡は鴨川の東側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約15mである。

図示した石器は表採資料である。綫長剝片を素材とした黒耀石製のナイフ形石器で先端を少し欠損している。

陣屋二号遺跡（第10図4、遺跡No34）

所在地：与野市上峰1丁目

立 地：本遺跡は鴨川の東側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約13mである。

図示した石器は表採資料である。裏面に主要剥離面を残す安山岩製の尖頭器で、先端及び基部を少し欠損している。

吉野原遺跡（第10図5～12、遺跡No45）

所在地：大宮市吉野原町2丁目

立 地：本遺跡は芝川の西岸、大宮台地（狭義）上に位置し、標高は約14mである。

調査は昭和42年に行なわれ、切出形石器4点(6・7・9・10)、ナイフ形石器2点(5・8)、疊器1点(12)、石核1点(11)及び剝片が出土した。

鷺山遺跡（第10図13～22、遺跡No43）

所在地：大宮市大和田2丁目

立 地：本遺跡は芝川の東岸、大宮台地（狭義）上に位置し、標高は約16mである。

調査の結果、北側台地肩部から先土器時代の遺物集中が6箇所検出された。石器出土層位は第III層中位面から第IV層中位面で、いわゆるハードロームから黒色帯にかけてである。

石器はナイフ形石器2点、擴・削器1点、尖頭器状石器1点、敲石2点、台石1点、石核1点、打面再生剥片1点、剝片54点、碎片122点の計192点であった。遺物分布の範囲が広いのに対し製品の数が少なかった。ナイフ形石器の完形品は縦長剥片を素材とし、二側縁に調整加工を施した(13)の1点のみであった。

前原遺跡（第11図、遺跡No67）

所在地：宮代町字中402番地他

立 地：本遺跡は古利根川の西側、慈恩寺台地に位置し、標高は約9mである。

調査の結果、第IV層ハードロームから第V層黒色帯にかけて、石器集中が2箇所検出された。第1ブロックでは黒曜石製のナイフ形石器を中心とし碎片を多数出土した。第2ブロックではナイフ形石器、削器などが出土し、第1ブロックよりも古い様相をしめした、しかし石器出土層位（自然層）では区別できず、ロームの堆積の少ない地域での一つの様相を示していると言える。

足利遺跡（第12図1～9、遺跡No115）

所在地：久喜市久喜本字馬場958番地他

立 地：本遺跡は白岡台地の東側に島状に孤立した小台地上に位置する。標高は約10mである。

遺物はナイフ形石器、台形状石器、ドリル、細石刃、尖頭器、削器、石核などが出土したが、すべて表土・耕作土中であった。

久台遺跡（第12図10～11、遺跡No71）

所在地：蓮田市東2丁目4133番地他

立 地：本遺跡は元荒川の西側、蓮田台地に位置し、標高は約12mである。

調査によって、横長剥片を素材としたナイフ形石器1点と、細石刃2点が出土した。出土状況はプライマリーでないため詳細は不明である。

帆立遺跡（第12図12～13、遺跡No73）

所在地：蓮田市馬込字八番1435-3番地他

立 地：本遺跡は元荒川の西側、蓮田台地に位置し、標高は約15mである。

調査によって、細身の両面加工尖頭器1点と、先土器時代のものと思われる黒曜石の石核1点が出土した。出土状況はプライマリーでないため詳細は不明である。

閑戸足利（第12図14～16、遺跡No74）

所在地：蓮田市大字閑戸字足利2689番地他

立 地：本遺跡は元荒川の西側、蓮田台地に位置し、標高は約12mである。

調査によって、黒曜石製のナイフ形石器(14)、薄身幅広で両面加工の尖頭器(15)、裏面に自然面をのこした単設打面の石核(16)がそれぞれ1点出土した。なお、出土状況はプライマリーでないた

め詳細は不明である。

ささら遺跡（第12図17～22、遺跡No72）

所在地：蓮田市東3丁目4224-3番地他

立 地：本遺跡は元荒川の西側、蓮田台地に位置し、標高は約12mである。

調査によって、発掘区II区とIV区からプライマリーな状況ではないが、それぞれ石器が出土した。II区からは黒曜石製のナイフ形石器4点(17・18・19)、III区からは尖頭器1点とナイフ形石器2点が出土した。なお、尖頭器とナイフ形石器(21)は同じ古墳の周溝から出土した。

天沼遺跡（第13図、遺跡No92）

所在地：上尾市大字上野1012番地他

立 地：本遺跡は荒川の東岸の西と東側に小さな谷が入る舌状台地上に位置する。標高は約15mである。

調査は三回に分けて行なわれ、先土器時代の遺物は第1次調査と第3次調査によって検出された。

第1次調査では、調査区の西端、台地の縁辺にグリッドを設定し、調査を行なっている。石器は第7層ハードローム層中より出土した。石器はナイフ形石器3点、搔・削器4点・ハンマー1点、礫器1点が出土した。石質は3の黒曜石と4の凝灰岩を除く他は、全てチャート製であった。

ナイフ形石器は1・2が横長剣片を素材とし、1は二側縁に調整加工が施されている。刃部は左刃と思われる。2は下半部を欠損していると思われる。調整加工は左側縁に施され、打面を取り除くように施されている。刃部は右刃で全体形状はD字状になると思われる。3は縦長剣片を素材とし、作りは粗悪なものである。

搔・削器では厚手縦長剣片の先端に刃部加工を施したもの(4)、小形剣片の縁辺に細かい刃部加工を不規則に施したものである。石核は節理を利用し板状に分割したものと、大型の剣片を縦に分割していく例が見られた。

第3次調査では、調査区全面にグリッドを設定している。石器出土層位は第6～7層、いわゆるソフトローム層からハードローム層にかけて出土した。石器集中は5箇所検出されたが、いずれも小規模なもので、石器の幾つかは単独出土であった。石器はナイフ形石器3点、搔・削器3点、楔形石器1点である。ナイフ形石器は3点それぞれ石器集中を異にしている。9・10は縦長剣片を素材とし、調整加工は二側縁に施されている。11は横長の剣片を折り、左側縁に調整剝離を施している。正面基部及び左側縁の一部に自然面を残している。石核は剣片を素材とした小形のものである。

殿山遺跡（第14～15図、遺跡No96）

所在地：上尾市大字畔吉字中

立 地：本遺跡は荒川と旧荒川河道跡のぶつかる地点で、台地は舌状を呈し、その先端部に位置する。標高は約16mである。

調査の結果、石器は第IV層いわゆるソフトローム層下半部から、第IV層の第二黒色帯と考えられる層上半部にかけて出土した。石器集中は広範囲に広がるもの4箇所、小範囲に集中するもの3箇所、拡散的に分布するもの1箇所であった。その内、石器と礫群が重複するもの3箇所、石器だけが分布するもの1箇所、礫群1箇所である。

石器はナイフ形石器41点、彫器2点、搔・削器31点、使用痕のある剝片55点、石核26点、剝片241点である。ナイフ形石器は第14図1～5が国府型ナイフ形石器で石質はすべてチャート製である。それに対して、他のナイフ形石器(6～21)は主に黒曜石を使用しており、国府型ナイフ形石器と他のナイフ形石器とは様相が若干異なっている。また、出土状況も報告書によれば、「黒曜石製のナイフ形石器等は、集中的な分布状態を示しており、国府型ナイフ形石器及びそれと同一母岩の可能性のある石器は、拡散的な分布中に出土し、集中的な遺物の分布中には出土していない」としている。今後、国府型ナイフ形石器と他のナイフ形石器群との関係を検討、分析をして行くなかで本遺跡の占める位置は重要であると考えられる。次に彫器と思われるものは、第14図22・25の2点が出土し、25は国府型ナイフ形石器と同一母岩と思われる。

前戸崎遺跡（第16図1～11、遺跡No93）

所在地：上尾市大字戸崎字前戸崎74番地他

立 地：本遺跡は鴨川の右岸、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約14mである。

調査は三地点にグリッドを設定して行なわれた。石器出土層位は第III層ソフトローム層中である。遺物の集中は南側のグリッドに1箇所検出され、ナイフ形石器2点(2・5)が出土し、他の石器は単独出土であった。ナイフ形石器は先端破片の5を除くと、3点とも縦長剝片を素材とし、調整加工は入念に施されている。1は裏面加工が見られる。

丸山遺跡第2地点（第16図12～17、遺跡No80）

所在地：伊奈町大字小室字丸山

立 地：本遺跡は青瀬川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約15mである。

石器はすべて表採資料である。ナイフ形石器は横長剝片を素材とし、左側縁に調整加工を施している。15は細石刃と思われる。16・17は安山岩製の石核である。

久保山遺跡（第17図1～19、遺跡No77）

所在地：伊奈町宇田妻5406番地他

立 地：本遺跡は青瀬川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約14mである。

調査の結果、台地の西側縁辺から先土器時代の遺物集中が1箇所検出された。石器の出土層位は第IV～V層で、ソフトローム層から黒色帯にかけてである。石器はナイフ形石器8点、使用痕のある剝片18点、剝片79点、碎片125点、石核2点の計232点である。

ナイフ形石器は、1～3は先端角が鋭角的で、調整加工が一側縁に施されている。4は先端角が90度に近く、調整加工は左側縁に施されている。5は欠損品のため細部は不明である。石核2点は剝片を素材としたものである。

大山遺跡（第17図20～37、遺跡No78）

所在地：伊奈町小室字大山1818番地他

立 地：本遺跡は青瀬川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約14mである。

調査の結果、A・B・C・D・F区の5箇所で石器が出土したが、A区以外は全て単独出土であった。A区では2箇所で先土器時代の石器集中が検出され、A1区ではナイフ形石器(20～23)、A1区はナイフ形石器(29)、尖頭器(24)などが出土した。

伊奈氏屋敷跡（第18図1～14、遺跡No.76）

所在地：伊奈町小室字丸山906番地他

立 地：本遺跡は青瀬川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約12mである。

調査の結果、台地肩部及び平坦面から先上器時代の遺物集中が検出された。石器の出土層位はソフトローム層からハードローム層にかけてある。

遺物の分布は調査区の北側と南側で検出され、南側は石器集中3箇所と砾群1箇所が確認された。また、プライマリーな状態ではないと思われるが、低湿地調査区から若干の石器（1・2・4・12）が出土した。石器は北側からナイフ形石器（6・8）の2点。南側からナイフ形石器（3・5・7・9・11）と角錐状石器（11）が出土した。

向原遺跡（第18図15～22、遺跡No.83）

所在地：伊奈町小針内宿字原1252番地他

立 地：本遺跡は青瀬川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約15mである。

調査の結果、石器集中1箇所と小規模な砾群1箇所が検出された。石器の出土層位は第III層ハードローム層である。石器は材質の悪いチャートを多用しているため、形状の整った剝片は少なく、サイコロ状の石核（節理によってブロック状に分割されたもの）が多い、製品はナイフ形石器と削器が出土している。

孤塚遺跡（第18図23～27、遺跡No.83）

所在地：桶川市川田谷

立 地：本遺跡は荒川の東側、大宮台地（狭義）の西縁辺に位置している。

石器はすべて表採資料である。尖頭器23は両面加工で安山岩製である。ナイフ形石器は形態のバラエティーが見られ、幾時期かのものが混在していると思われる。

生出塚遺跡（第18図29、遺跡No.113）

所在地：鴻巣市東3丁目38番地他

立 地：本遺跡は元荒川の西側、大宮台地（狭義）に位置し、標高は約19mである。

調査によって、グリッドからナイフ形石器1点が出土した。ナイフ形石器は縦長剝片を素材とし、調整加工は基部及び左側縁に施されている、石質は硬質頁岩製である。

（西井幸雄）

2 石器群の特徴

大宮台地から出土した先土器資料の特徴を以下のようにいくつかにまとめて説明したい。最古の石器群・ナイフ形石器群・尖頭器石器群・細石器石器群の順である。

まず今のところ最古の石器群と思われるものには浦和市明花向A区の資料がある。ナイフ形石器は出土していない。大形厚手の剝片を石核とする横長剝片の剥離に特徴がある。山形にちかい打面の頂部から剝片を剥いでいる。剥離の過程や剝片の形状にはいわゆる額戸内技法に類似する点がある。明花向A区では検出されなかったが、同様の石器群が出土した武藏野台地上の富士見市打越L.A地点ではナイフ形石器が伴っている。明花向A区も本来ナイフを含む石器群であったろう。横長の剝片がナイフの素材であったとしたら、国府型ナイフ形石器と瓜ふたつであったろうか。

明花向A区に後続する石器群の多くはハードローム層からソフトローム層中に包含されている。したがって異なる遺跡間を層位によって編年することは不可能である。出土した石器の特徴からさらにいくつかに分けて説明しておく。まず角錐状石器を出土した遺跡には浦和市井沼方馬堤・西谷・松木、川口市天神山、伊奈町伊奈氏屋敷跡遺跡などがある。井沼方馬堤では角錐状石器と台形状のナイフ形石器が同一母岩で製作されている。西谷の角錐状石器は大形のものが多いが、他にどのようなナイフ形石器が伴うかは不明である。松木・天神山の角錐状石器と呼ばれている資料は図示されているものからは判断がつきがたい。さらに資料の増加と分析とを待つ石器群である。

次に国府型ナイフ形石器を含む資料である。上尾市殿山・浦和市馬場北遺跡、類似するものが上尾市天沼や桶川市武藏加納城址より出土している。このうち殿山を除く三遺跡では他の石器との組合せが明確ではない。殿山遺跡ではチャート製の国府型ナイフと黒曜石製のナイフとが出土したが、石質のみならず形状や分布にも差がある。国府型ナイフと同一母岩の縦長剥片素材のナイフではなく、黒曜石製のナイフの中には国府型ナイフは含まれていない。これを共伴と見た場合、在地型のナイフと国府型との共存と考える見方もある。しかし在地型とはどういうことなのか、国府型とはなぜ共伴するのか、不明確な点が多い。

角錐状石器や国府型ナイフを含まず、剥片を縦や横に利用するナイフ形石器を出土する例がある。宮代町前原遺跡第2ブロックや伊奈町向原遺跡が該当しよう。両遺跡ともに鋸歯縁の削器状のものを伴っている。角錐状石器も本来保持していたのかどうかは分からぬ。

上尾市前戸崎・伊奈町久保山・宮代町前原遺跡第2ブロックは剥片を縦長に用いたナイフ形石器を中心とした砂川型式の石器群である。三遺跡のうち前戸崎はナイフ形石器の裏面加工の特徴などほぼ砂川遺跡に一致する。残る二遺跡は裏面加工よりも全体の平面形や基部形状に特色がある。砂川型式内でも砂川遺跡並行期とそれほどかけ離れた時期ではないと思われる。

ナイフ形石器の終末にちかい時期の石器群と思われるものも当台地からかなりの数が出土している。川口市の海道西・浦和市大古里・伊奈町大山などが挙げられよう。ただいずれも資料数が少なかったり、出土状態に難があり、尖頭器との共伴などでは未解決な問題が多い。この時期で最もまとまっているのは明花向C区の石器群であろう。先端の尖がるものと、平面形が台形を成すものの二種のナイフを中心として、尖頭器は出土していない。県内には類例はないが、神奈川県相模原市下九沢山谷第II文化層の資料に一致するものと思われる。下九沢山谷では下層の第III文化層から砂川型式の石器群が出土している。明花向C区も下九沢山谷遺跡での層位的序列から砂川型式以降の石器群と考えられる。

尖頭器とナイフ形石器の確実な共伴例は当台地のみならず、県内にも今のところ存在しない。浦和市の大古里など共伴が推定された遺跡もあったが確実とは言えない。単独表採例の多い尖頭器が共伴するのなら、一体どのようなナイフ形石器と共に伴するのか、今のところ当台地からは軽資料の出土をみていない。

細石器資料にもその全容を伺える出土例はない。細石核か細石刃が単独で出土する例ばかりである。その中では浦和市井沼方の資料は細石核や細石刃を含まないが、神奈川県報恩寺遺跡に匹敵する大形の縦長剥片の接合資料が多量に出土している。同様の大形剥片は庄和町風早遺跡ソフトロー

ム層中より、細石器などと一緒に出土している。井沼方遺跡も正に細石器を欠く細石器石器群の一部であろう。神奈川県報恩寺遺跡からは多數の舟底状の細石核が伴っている。大宮台地においても細石器のまとまった資料にめぐり会うのも時間の問題と思われる。

(田中英司)

3 編年上の問題

前節まで、大宮台地における先土器時代石器群を通観し、若干の検討を加えてきた。その中で、すでに編年上の諸問題もその都度触れられているところである。つまり、大宮台地における該期石器群のほとんどがソフトロームからハードローム上面の限られた土層から検出されている。これら同層位から検出された石器群をどのように整理、区分し時間的位置づけを与えるか、という問題が一つある。また逆に、ハードローム中位から下層の石器群が資料的に乏しく、他の諸台地で試みられているように、石器群を層位を中心とした大きな流れとして系統的に追求することが難しい状況にある。さらには細石刃文化期の石器群が散発的であり、土器出現期までの過程が不明瞭である。

上記したような大きな問題が残されているが、以下、個々の問題について簡単に触れてみよう。

大宮台地において現在のところ最古の石器群は、浦和市明花向遺跡A区IX層の石器群である。この石器群は少なくとも2つの剥片剥離技術をもっているが、特に注目されるのは、いわゆる翼状剥片によく似た剥片が存在することである。むろん、これをもって即瀬戸内地域と関連づけて考えるのは早計にすぎよう。前述したように、大宮台地では古い段階の石器群を系統的に追求するに足りる資料は検出されていない。ただ、上尾市駿山遺跡からは關府型ナイフ石器が出土しており、明花向遺跡、駿山遺跡両者の石器群について、時間差はあるもののその系統などをめぐり今後、充分検討する必要はあろう。

東日本における瀬戸内地域をもつ石器群の編年的位置づけは、若干の異論はあったが、現在ではほぼ固まりつつある。明花向遺跡A区の翼状剥片に似た剥片の出自、系統について関東地方におけるひとつの石器群として今後注意をはらってゆかねばならないであろう。ただ現時点では、明花向A区IX層の石器群は、出土層位の点からしても直接瀬戸内地域との関連は考えにくい。

明花向A区IX層に後続する石器群は、現在のところ、きわめて乏しい。川口市新町遺跡ではハードローム層の下半部から、大形剥片を主体とする石器群が検出されたようだ。(埋文事業団調査)。斜面部から出土したもので、層位は明確でない。資料からの判断では、富士見市KA地点の大形剥片石器群に類似する点があり、武藏野台地でいうVII層前後に相当する可能性がある。しかし、前述した明花向A区IX層の石器群との脈絡は不明である。川口市新町遺跡の他、ハードローム上面までの間、空白に近い状態となる。まさに寸断され、点でしか系統をたどることができない。

次に、ソフトロームからハードローム上面の間から出土する多量の石器群の問題がある。

大宮台地は、相模野台地や下総台地あるいは武藏野台地と比べるとローム層の堆積が薄い。このことから、ある期間に製作・使用された石器群が限られた範囲のローム層中に圧縮されたように包含されている。火山灰噴出源から遠い地域では同じ様な状況が見られるようである。

これらの石器群をどのように区分し、時間的位置付けを与えるかと言うことが、大宮台地における該期研究の現時点での最も大きな課題となっている。これにはいくつかの方法が考えられる。①

他の諸台地の層位による編年網と比較・検討する②層位よりも資料そのものによる編年の方法をさぐる等々である。

隣接諸台地のこれまでの編年研究をみると、層位を基本にしたものとなっている。ここ数年、細別化がすすむ中で、層位による区分ではすでに限界にきているようだ。

石器群を区分する方法は從来行なわれてきたように特にナイフ形石器の形態からおしすすめる方法、剥離技術、さらにはひとつの石器（たとえば角錐状石器など）を抽出し、それの有無などで区分してきたが、細別化をおしすすめるのであればやがて限界がみえてくるであろう。

しかし、一方では、これまでの研究の流れとして、上記したような方法もそれなりに評価を受けなければならないだろう。また大きな流れを通観するには、ある程度有効であった。

いずれにしても、同一層位から検出される石器群をいかにして分離し、編年網の中に組み入れるか模索の段階である。

ナイフ形石器に続く細石器文化期の遺跡は現在のところ数も少なく、資料的に乏しい。したがってここでは、細石器文化期を細分するに至っておらず、現時点では一括してナイフ形石器の後に位置付けておく。ただナイフ形石器と重複する時期があったことは充分予想される。

細石器消滅後、土器が出現するまでの期間、これまた大宮台地では空白に近い。この時期、きわめて短期間のうちに経過したと考えられる。いずれにしても現時点ではこの時期は、ナイフ形石器消滅後、土器出現までの時期を、細石器の段階と細石器消滅以降として大きく二分しておいて、資料の増加を持って順次区分してゆく他方法はあるまい。

さて、大宮台地における先土器時代石器群の編年上の諸問題については、冒頭にも述べたように、大きな問題が三つある。とりわけ、ソフトローム層からハードローム上面にかけて検出された石器群を、どのような方法で区分し時間的位置付けを与えるか、これが現在のところ、最も大きな問題であろう。層位では分離不可能であり、資料そのものの分析によって先後関係を検討する他ない。

（水村孝行）

おわりに

大宮台地における先土器時代遺跡群研究の現状を通観し、いくつかの問題点を指摘してきた。それぞれの問題点について、改めてここではくり返さないが、今後の研究の方向性をいくつかさぐってみたい。

まず、大宮台地そのものの問題であるが、堀口万吉氏によれば、本台地の北東部に接する加須低地は、関東造盆地運動によってローム台地が沈下したもので、本来はさらに北に位置する館林台地とは一連のものであったという。このことから、現在の大宮台地に立地する遺跡、そこから検出される石器群を検討する場合、私達の眼を、南に隣接する台地ばかりでなく北方にも向けなければならぬだろう。これまで各章各節でみてきたとおり、大宮台地の該期研究の主舞台は台地中・南部にある。しかし、行田市内で細石刃石核が採集されており、現在水田として利用されている地域にも埋没ロームは存在するのである。いわゆる現在みられる中小河川に面した台地の縁辺部に該期遺跡が存在するという概念は一時切り離して、加須低地を充分観察する必要がある。ややもすると研

究のすすんでいる武藏野台地に眼を向けがちであるが、それ以上に館林台地の動向にも常に关心を持たねばなるまい。

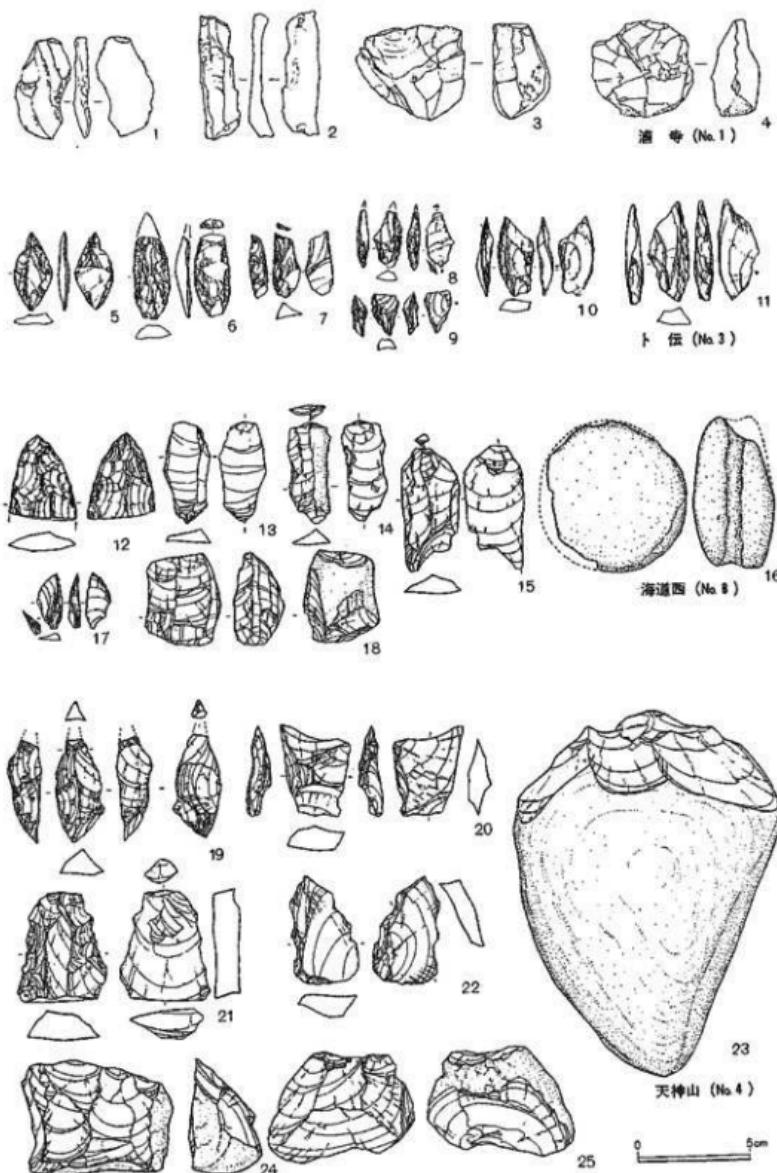
また、本稿では特にとりあげなかつたが、河川の流域を単位とした遺跡の立地、石器群の時期的な流れなどの追求も今後とりあげなければならぬだろう。

さて、私たちは大宮台地という限られた地域を選び、先土器時代研究の現状を正確に把握することにつとめたつもりである。今回の共同作業を通じ、各々が何かを掘んで、今後の研究の踏み台になればと考えている。諸先生の御批判、御指導をお願いするだいである。

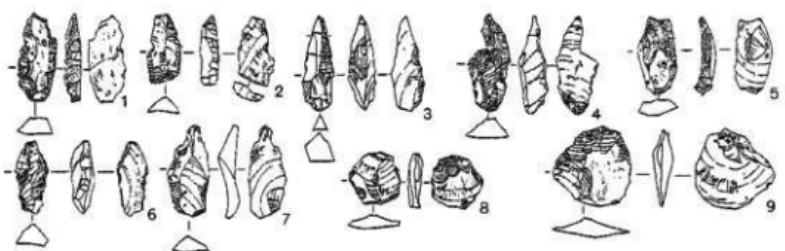
(水村孝行)

引用・参考文献

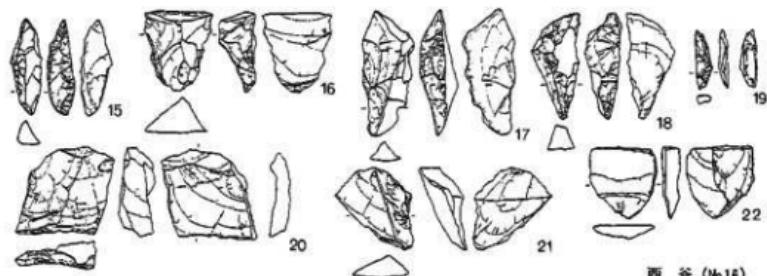
- 荒井幹夫 1976『打越第二地点』富士見市教育委員会
- 荒井幹夫 1976『富士見市貝塚山遺跡第2・3地点の調査』『第17回遺跡発掘調査報告会発表要旨』
- 関東ローム研究グループ著 1965『関東ローム—その起源と性状』築地書館
- 佐々木保俊 1977『西松原遺跡第1地点』『富士見市文化財報告』富士見市教育委員会
- 杉原莊介編 1965『日本考古学I・先土器時代』河出書房
- 砂川遺跡調査団編 1974『埼玉県所沢市砂川先土器時代遺跡第一2次調査の記録』所沢市教育委員会
- 滝沢 浩 1962『埼玉県市場坂遺跡略報—ナイフ形石器を中心とするインダストリー』『考古学手帳』15
- 田中英司 1979『埼玉県における先土器時代調査の現状と課題』『情報』6
- 戸沢充則 1966『埼玉県砂川遺跡の石器文化』『考古学集刊』第4巻第1号
- 富士見市教育委員会 1973『打越遺跡』
- 富士見市教育委員会 1983『打越遺跡』
- 堀口万吉 1980『埼玉県の地形と地質』『埼玉県市町村誌第20巻総説編』埼玉県教育委員会
- 堀口万吉 1981『関東平野中央部における考古遺跡の埋没と地盤変動』『地質学論集』第20号



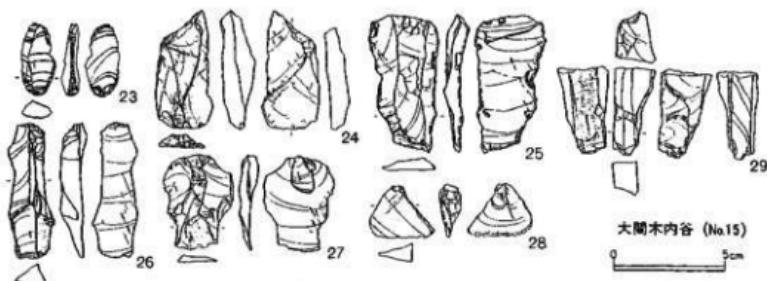
第6図 烏ヶ谷市(1~4)・川口市(5~25)



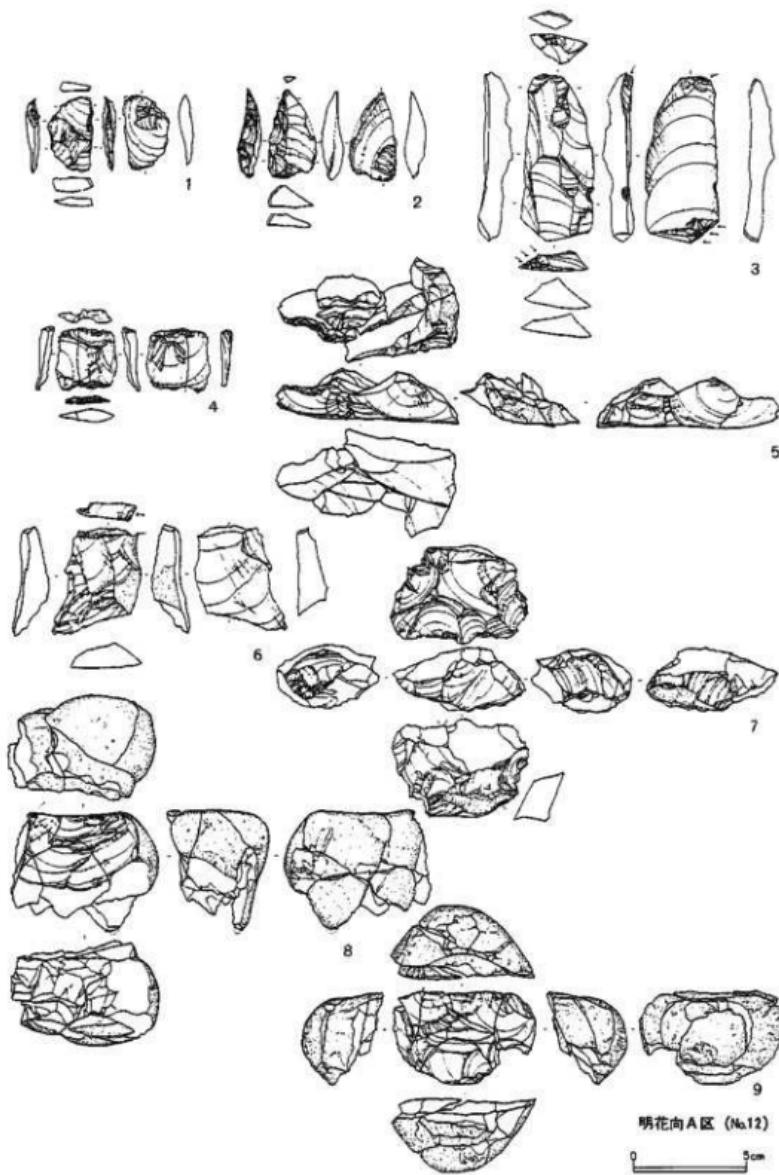
松木 (No.28)



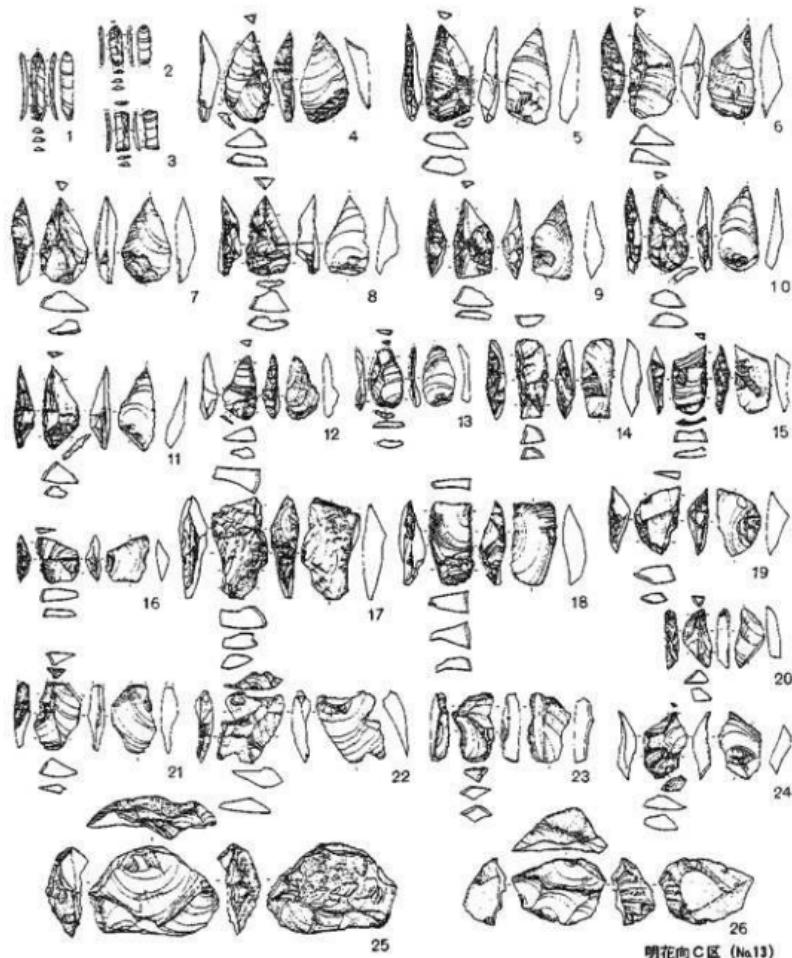
西谷 (No.16)



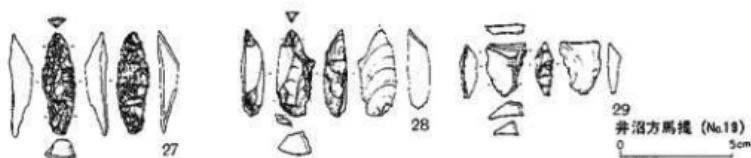
第7図 浦和市 (1~29)



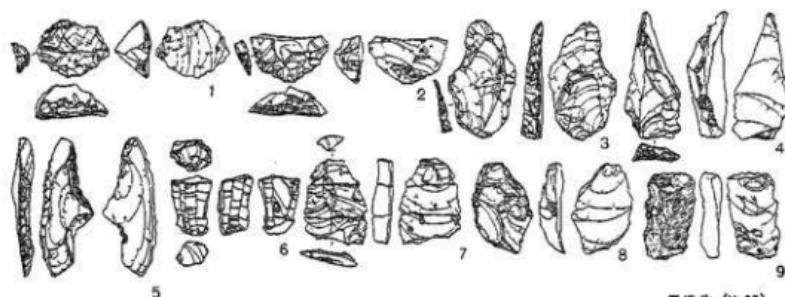
第8図 浦和市 (1~9)



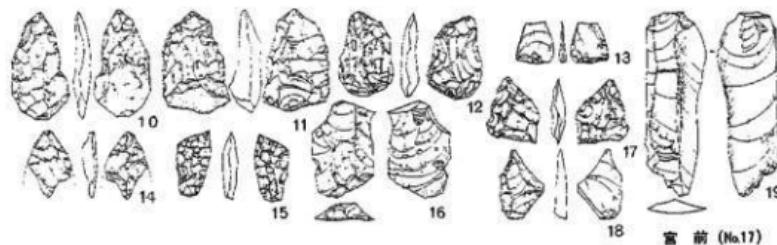
明花向 C 区 (No.13)



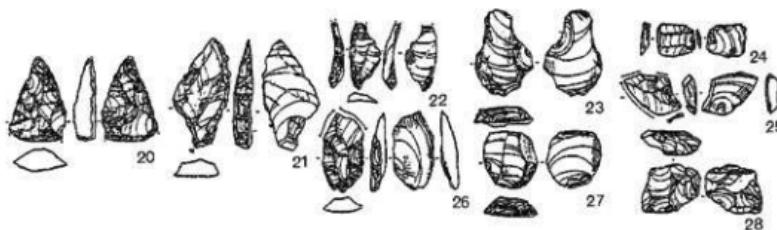
第 9 図 浦和市 (1 ~ 29)



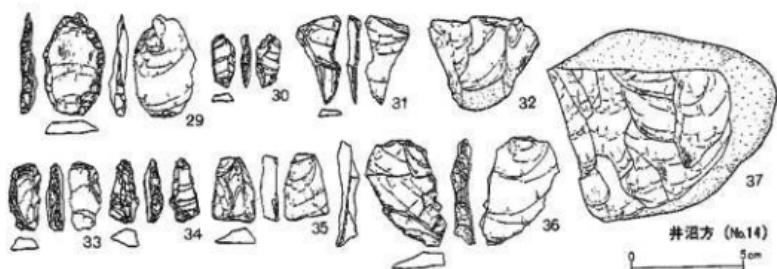
馬場北 (No.27)



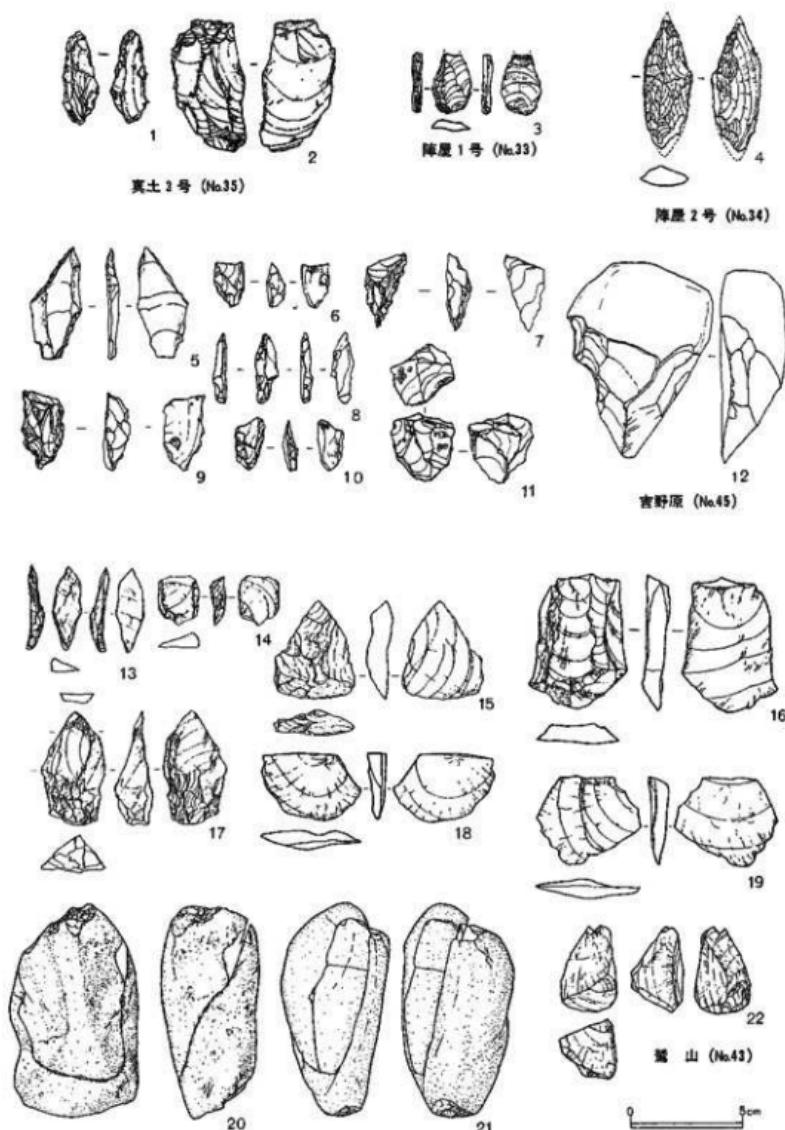
宮前 (No.17)



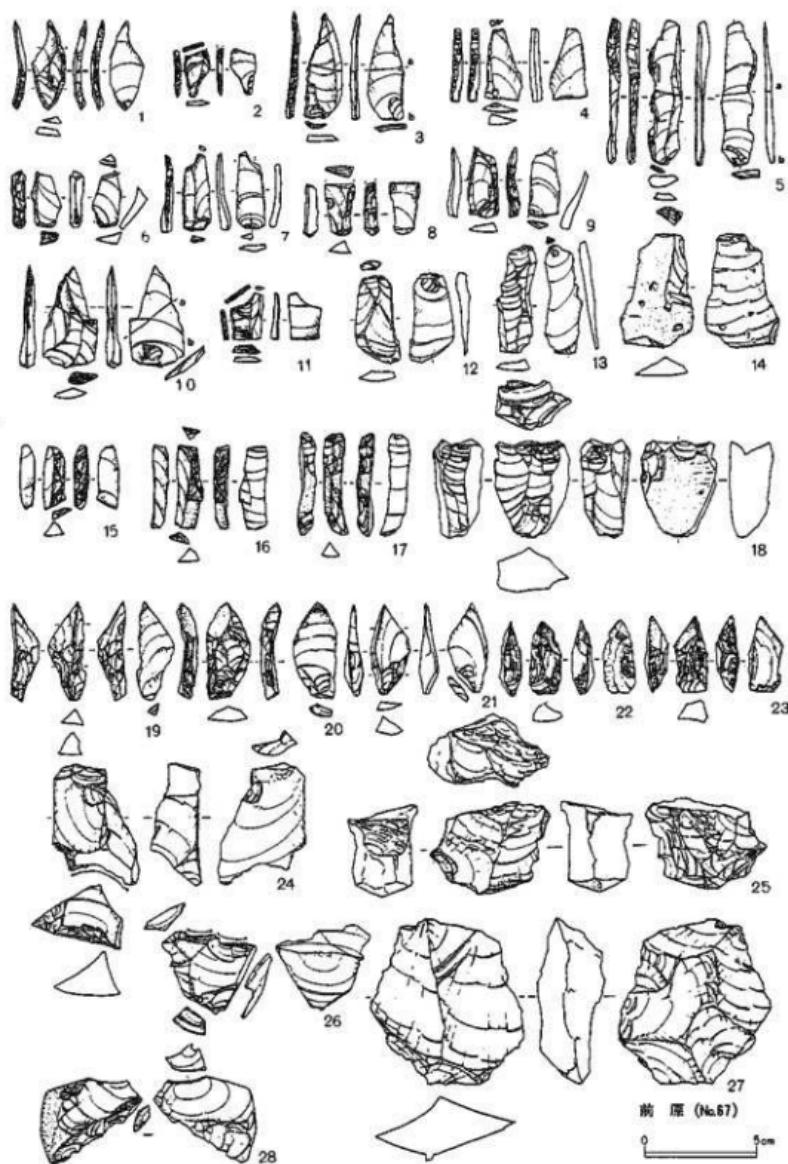
大古里 (No.28)



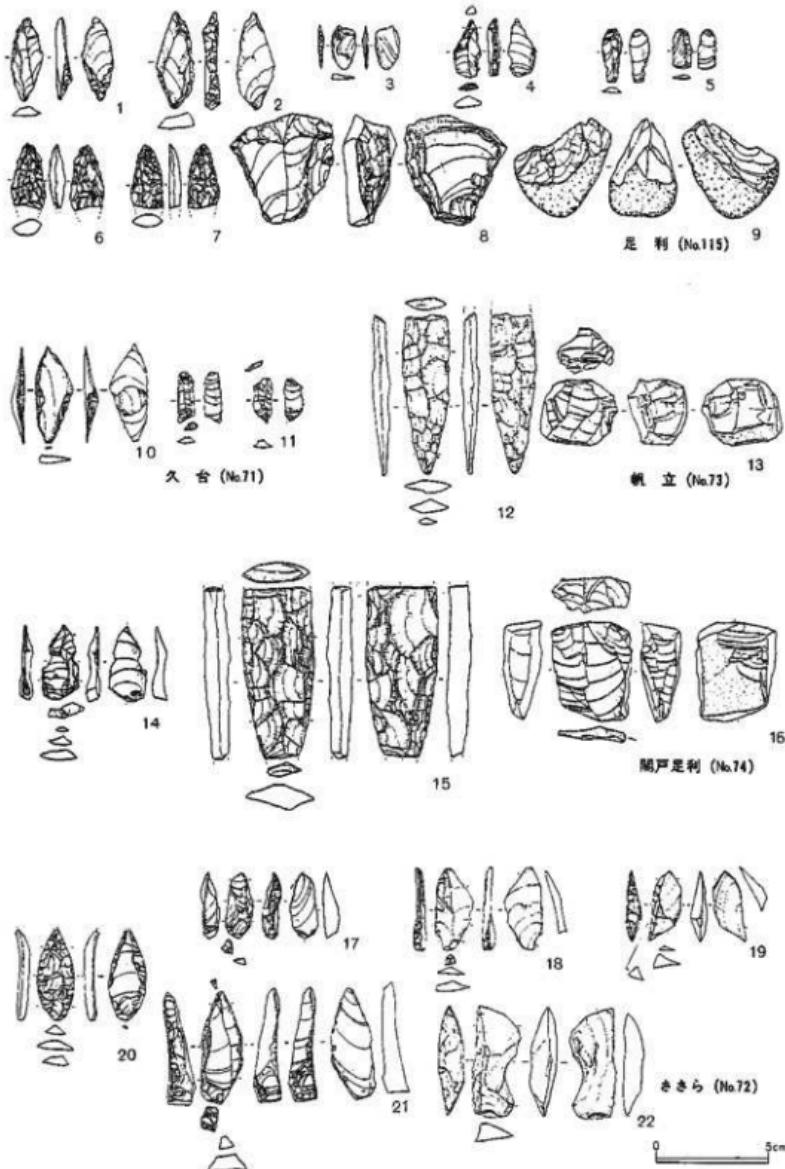
第10図 浦和市 (1~37)



第11図 与野市 (1~4)・大宮市 (5~22)



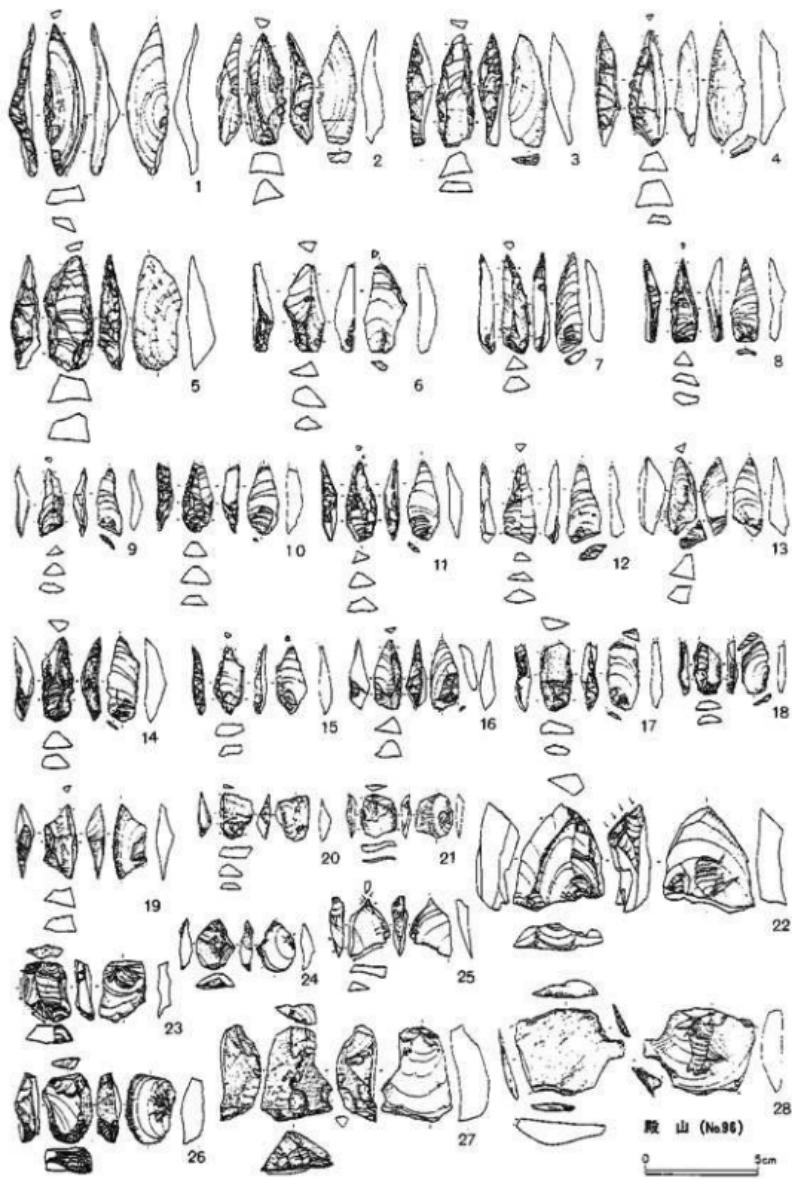
第12図 宮代町 (1~28)



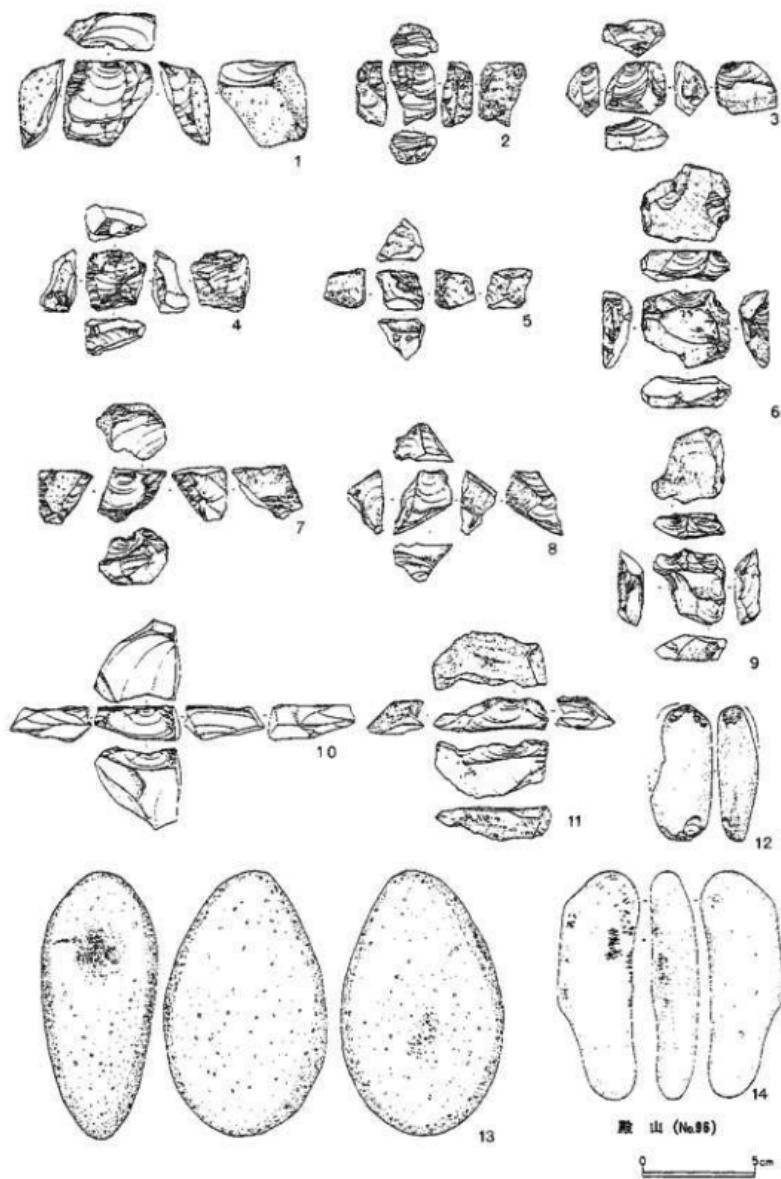
第13図 久喜市 (1~9)・蓮田市 (10~22)



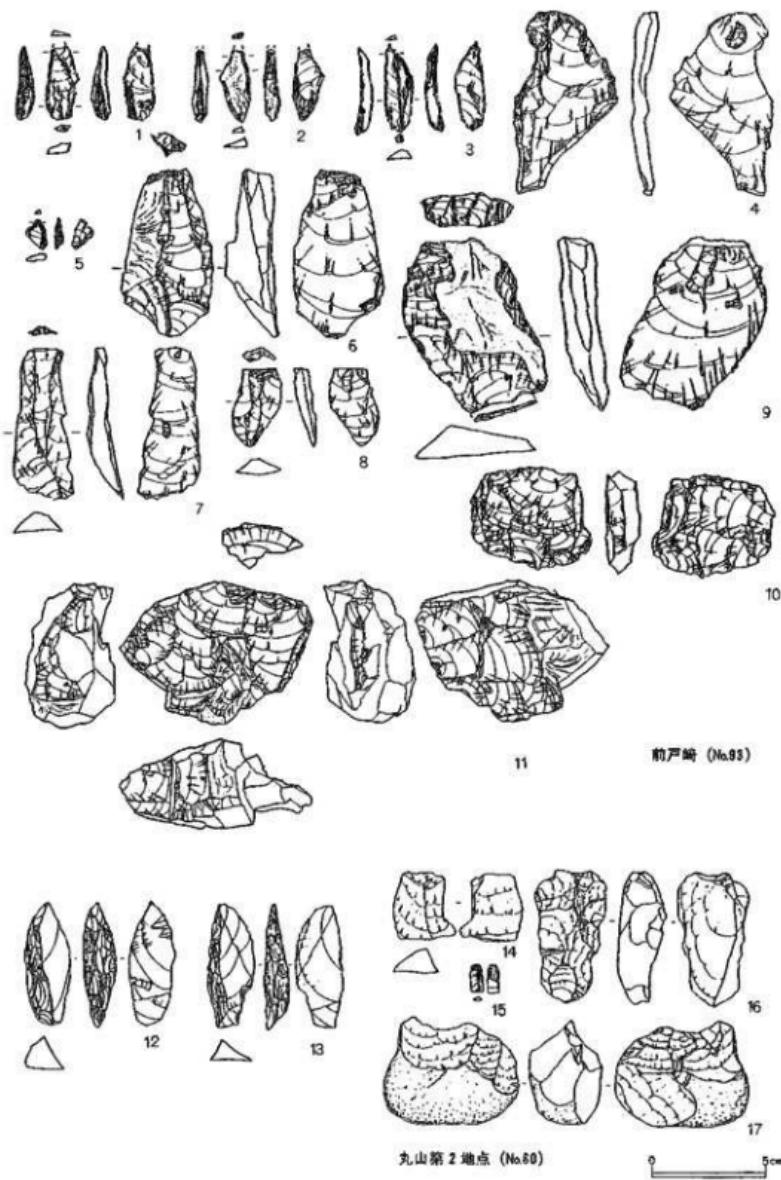
第14図 上尾市 (1~17)



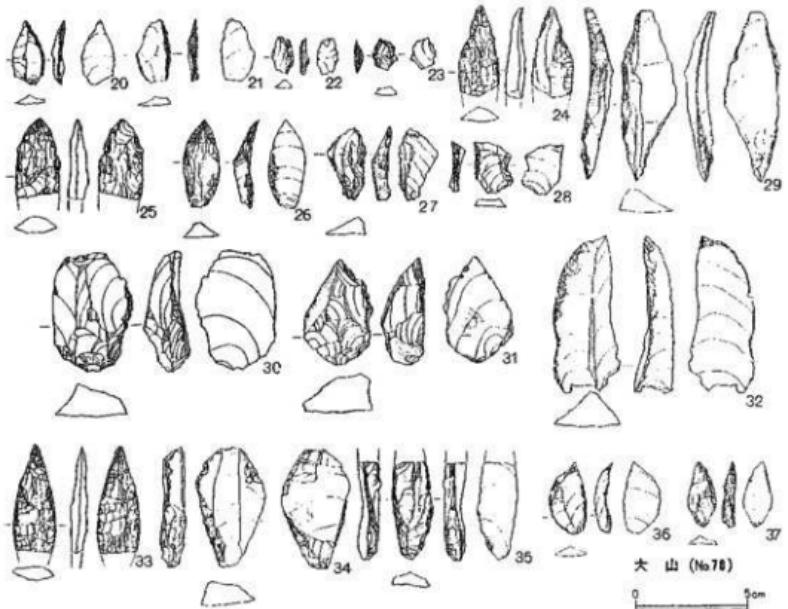
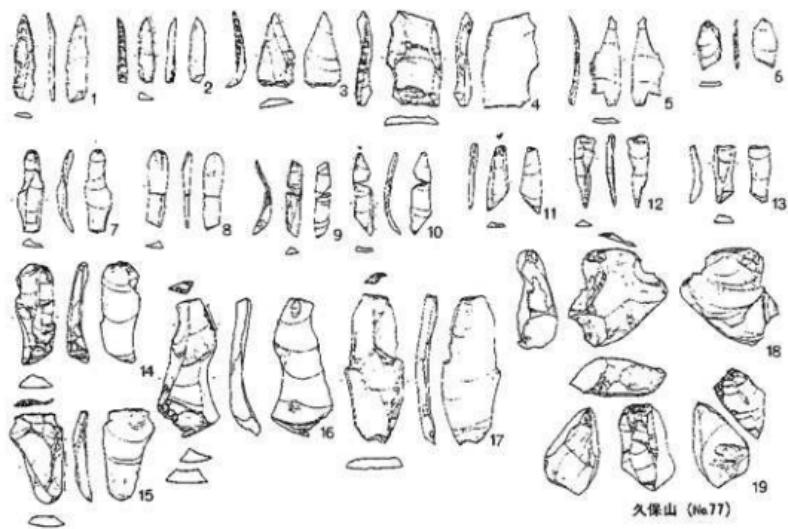
第15図 上尾市 (1~28)



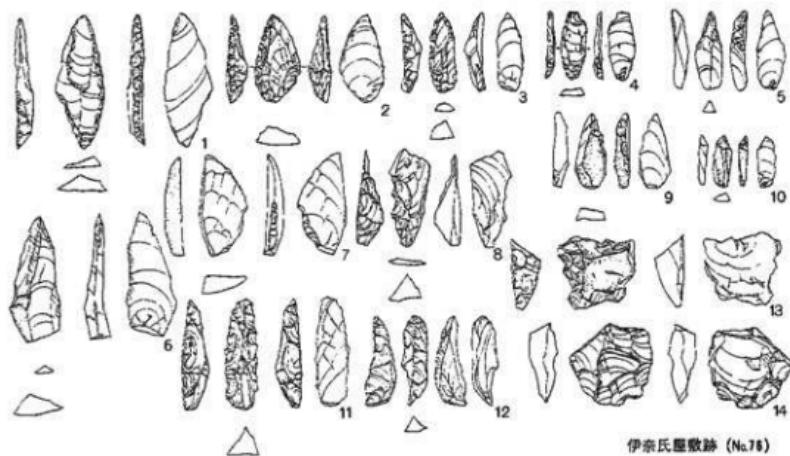
第16図 上尾市 (1~14)



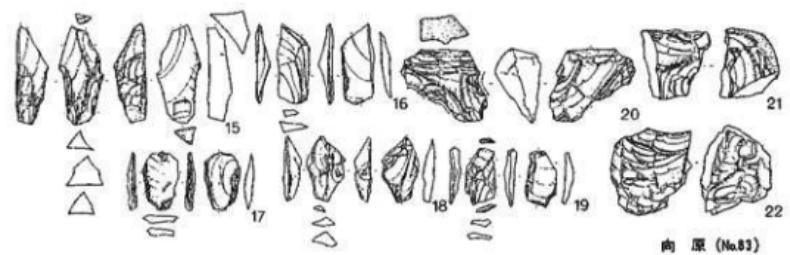
第17図 上尾市 (1~11)・伊奈町 (12~17)



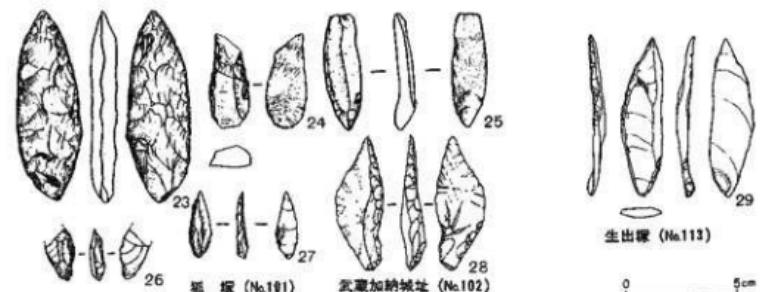
第18図 伊奈町 (1~37)



伊奈氏鹿歎跡 (No.78)



向原 (No.83)



生出塚 (No.113)

第19図 伊奈町 (1~22)・桶川市 (23~28)・鴻巣市 (29)

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表(1)

番号	遺跡名	所在地	石器集中数	砾群数	石器総数	石 器												石 質						文献							
						ナ	尖	台	角	斧	搔	削	錐	礫	細	纖	磨	凹	皿	台石	蔽	核	剝	碎	削	紙	他	黒	チ	安	砂
1	進寺	鳩ヶ谷市進寺大通662			○														○	○											①
2	県地名表No.5	〃 桜田2丁目																													②
3	ト伝遺跡	川口市西新井宿字ト伝			○○																○										④
4	天神山	〃 赤井天神山			○	○	○												○	○										⑫ ⑬	
5	石神貝塚	〃 石神新井宿			○			○																							⑯
6	道合	〃 道合久保前														○															⑪ ⑫
7	小谷場	〃 小谷場			○																										⑯ ⑰
8	寿退西	〃 石神			○○										○			○○													⑯
9	安行吉岡	〃 安行吉岡			○																										⑯
10	白幡本宿	浦和市白幡本宿			○		○																								⑯
11	〃 ツ木	〃 大谷場一ツ木			○																										⑯
12	明花向A区	〃 大谷字明花	4	247	○			○										○○			2		1							⑯	
13	〃 C区	〃	6	4	424	○		○	○	○							○○○○			352	14	24	12	2	1	13			⑯		
14	井沼方	〃 井沼方字東谷						○	○	○						○	○														
15	大間木内谷	〃 大間木内谷			8	○		○									○○			8		1								⑯	
16	西谷	〃 西谷	3	約150		○○											○		○		18		20						⑯		
17	宮前	〃 宮前			19	○																								⑯	
18	付島	〃 大牧字付島				○																								⑯	
19	井沼方馬堤	〃 井沼方字馬堤	2	33	○○	○	○										○○○			2	15	1	8	1	1	5			⑯		
20	えんぎ山	〃 大崎字棚井			○○																									⑯	

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表 (2)

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表(3)

番 号	遺跡名	所在地	石器 集中 数	縁群 数	石器 総数	石 器												石 質					文 獻						
						チ	尖	台	角	斧	搔	影	錐	礫	細	磨	唐	凹	圓	台	敲	削	碎	砥	他	黒	手	安	砂
41	中川八幡	大宮市中川字天神			○																								◎◎
42	高井	〃 大和田1丁目			○																								◎
43	鶯山	〃 2丁目	6	192	○														○○				201	4	4	1	66	6	◎
44	保春	〃 人和田																	○										
45	古野原	〃 古野原2丁目			○○		○																						◎◎
46	西木郷	〃 木郷町				○																							◎
47	高台山	〃 東大宮3丁目			○○							○						○											◎
48	東北原	〃 2丁目									○○																		
49	小深作字前	〃			○																								
50	県地名表No.27	〃 丸能町3丁目																○											◎
51	〃 No.82	〃 中川字源訪			○																								◎
52	〃 No.74	〃 中川字天神				○																							◎
53	〃 No.72	〃 中川			○○																								◎
54	〃 No.158	〃 大谷字向大谷			○																								◎
55	〃 No.120	〃 日通町1丁目			○																								◎
56	〃 No.155	〃 上戸町2丁目																○											◎
57	〃 No.155	〃 上戸町2丁目			○																								◎
58	〃 No.157	〃 別所町																○											◎
59	〃 No.157	〃 小深作			○																								◎
60	新曲輪	岩槻市太山			○○		○																						◎

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表 (4)

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表 (5)

番号	遺跡名	所在地	石器集中数	縁群 数	石器 総数	石 器												石 質					文 献							
						尖	台	角	斧	彫削	影	錐	礫	細刃	磨	凹	圓	台石	蔽	剝	碎	削	砥	他	黒	手	安	砂	凝	頁
81	丸山第3地点	伊奈町丸山			○													○											㉙	
82	下 郡	〃 下郡															○			○									㉙	
83	向 原	〃 向原			○		○												○	○									㉗ ㉙	
84	平 方 町	上尾市平方町																											㉙	
85	尾 山 台	〃 瓦葺字尾山台			○		○																						㉙	
86	瓦葺LOC1	〃 瓦葺			○																								㉙	
87	瓦葺LOC2	〃 瓦葺																	○										㉙	
88	原市LOC1	〃 原市									○	○						○	○										㉙	
89	原市LOC2	〃 原市																												㉙
90	十二番耕地	〃 原市字十二番耕地																	○										㉙	
91	小 室 八 番	〃 小室八番																	○										㉙	
92	天 邻	〃 大字上野1012				○													○	○	○								㉙	
93	前 戸 嶺	〃 前戸字前戸嶺	1	129	○			○	○									○	○	○		1	92		21		㉙			
94	領 家	〃 大字領家																	○	○									㉙	
95	畔 吉	〃 畔吉字八番耕地																												㉙
96	殿 山	〃 畔吉字中				○												○	○										㉙ ㉛ ㉜	
97	県地名表No83	〃 前戸字丸山																												㉙
98	〃 No79	〃 平方新田字小塚				○																								㉙
99	〃 No81	〃 畔吉字八番耕地																												㉙
100	〃 No82	〃 前戸字丸山																○	○										㉙	

大宮台地 先土器時代遺跡一覧表 (6)

番号	遺跡名	所在地	石器集中数	石器総数	石 器												石 質				文 獻										
					ナ	尖	舌	角	斧	搔・削	彫	錐	礫	細	細刃	磨	凹	皿	台	敲	核	剝	碎	削	片	砥	他	黒	チ	安	砂
101	風塚	桶川市川田谷字櫻荷			○	○																									③
102	武藏加納城址	* 加納字落敷			○	○																								⑩ ⑪	
103	川田谷	* 川田谷字小在裏									○	○								○										⑭	
104	下日山谷	* 下日山谷																		○										⑮	
105	LOC 1	* 下日山谷							○																					⑯	
106	柏原LOC 1	* 川田谷字若宮																		○										⑭	
107	柏原LOC 2	* 川田谷字八幡				○	○									○	○													⑬	
108	柏原LOC 3	* 川田谷字前原									○																			⑭	
109	東台	* 川田谷字東台									○	○																		⑭	
110	宮岡	北本市高尾字宮岡																		○										⑬	
111	樋戸	* 下石川字久保																		○										⑭	
112	高尾	* 高尾字高岡																		○										⑭	
113	城山	鴻巣市大間字原					○																							⑮ ⑯	
114	生出塚	* 東3丁目					○																							⑭	
115	足利	久喜市馬場					○					○																		⑭	
116	長野中学校	行田市長野										○																		④ ⑮	

凡例 ナ ナイフ形石器 尖 尖頭器 台 台形石器 角 角錐状石器 斧 石斧 搔・削 搌・削器 彫 彫器 錐 石錐 磲 磨器 細 細石核 細刃 細石刃
 磨 磨石 凹 凹凸石 皿 石皿 台石 台石 敲 敲石 核 石核 剥 剥片 碎 碎片 刨 刨片 破 破片 他 その他
 黒 黒曜石 チ チャート 安 安山岩 凝 凝灰岩 頁 頁岩 他 その他

大宮台地先土器時代文献一覧

1961年

- ① 加藤晋平・藤本強・大井晴男 「埼玉県桶ヶ谷町浦寺遺跡関東ローム層中出土の石器群について」考古学雑誌第47巻第1号

1962年

- ② 安岡路洋 「大宮周辺の無土器文化」 埼玉文化月報 121

1963年

- ③ 安岡路洋 「桶川町川田谷孤塚発見の石器」 埼玉文化136

- ④ 栗原文藏 「無土器時代」「古代の行田」

1964年

- ⑤ 片沢長介 「旧石器時代の日本」 自然13-10

1965年

- ⑥ 柳田敏司・横川好富・小林達雄 「米島貝塚」 庄和町文化財調査報告 第1集

- ⑦ 浦和考古学会 「浦和・与野遺跡地名表」 浦和考古研究会調査報告 2

1966年

- ⑧ 柳田敏司・庄野靖寿・青木義修 「岩槻市新曲輪遺跡調査報告」 埼玉考古 4

- ⑨ 安岡路洋 「大宮市指扇戸尻に於ける鐵文早期の資料」 埼玉考古 4

- ⑩ 浦和市文化財調査委員会編 「大谷場貝塚・一ヶ木遺跡」 南浦和地区埋蔵文化財発掘調査報告 2

1967年

- ⑪ 「道合遺跡」 川口市政だより216 川口市史

1968年

- ⑫ 桶川町教育委員会 「川田谷の遺跡と遺物」 桶川町文化財調査報告 I

- ⑬ 「天神山遺跡」 川口市政だより222

- ⑭ 梅津 昇 「荒川沿岸出土の旧石器」 うらわ文化22

- ⑮ 梅津 昇 「旧石器採集の好機」 考古学ジャーナル20

1969年

- ⑯ 安岡路洋 「浦和市えんぎ山の調査」 埼玉考古学会 第2回遺跡発掘調査報告発表会要旨

1970年

- ⑰ 荒井幹夫・実川順一・小田静夫 「大宮台地の先土器時代新資料について」 Prehistory 23 先史文化研究会

- ⑱ 先史文化研究会 「埼玉県先土器時代地名表」 Perhistory 23 先史文化研究会

- ⑲ 小田静夫 「先土器文化」 埼玉県資料集 山川出版社

1971年

- ⑳ 宮崎朝雄 「西原遺跡」 埼玉県考古学会 第4回遺跡発掘調査報告会発表要旨

- ㉑ 梅津 昇 「大宮台地左岸における前・中期、旧石器文化存在の問題・その着目」 Prehistory 24 先史文化研究会

- ② 甘楽義雄 「桶川市柏原遺跡」 Prehistory 14 先史文化研究会
- ② 先史文化研究会 「埼玉県先土器時代地名表」 Prehistory 24 先史文化研究会
- ④ 荒井幹夫・実川順一・田中英司・織笠昭 「大宮台地の先土器時代新資料(続)」 Prehistory 25
- ⑤ 海道西遺跡調査会 「先土器時代」「東北自動車海道西遺跡調査報告書」日本道路公団東京第一建設局、川口市海道西遺跡調査会
- 1972年
- ⑥ 吉川国男 「北本市の遺跡と遺物」「北本市の埋蔵文化財」北本市文化財報告第1集
- 1974年
- ⑦ 浦和市 「旧石器時代」「浦和市史第1巻」
- 1975年
- ⑧ 埼玉県教育委員会 「埼玉県遺跡地図」埼玉県教育局文化財保護課
- 1976年
- ⑨ 高野博光 「浦和の遺跡」創刊号
- ⑩ 織笠昭・松井政信・高野博光 「先土器時代遺物とその分布」「大古里遺跡発掘調査報告書」浦和市教育委員会
- ⑪ 山本良知・黒須岑生・田中英司 「局部磨製石斧を出土した風早遺跡—埼玉県庄和町風早遺跡の調査一」考古学ジャーナル No126
- 1977年
- ⑫ 「海道西遺跡」 埼玉考古学会第10回遺跡発掘調査報告発表要旨
- ⑬ 元井 茂 「先土器時代の石器」「白幡中学校校庭内遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書 第3集
- 1978年
- ⑭ 斎藤悟朗・柿沼幹夫・津田進・松井政信 「先土器時代」「天神山遺跡」川口市文化財報告書 第8集
- ⑮ 大宮市 「旧石器時代」「大宮市史第1巻」
- 1979年
- ⑯ 谷井 雄 「先土器時代」「大山」埼玉県遺跡発掘調査報告書第23集
- ⑰ 金子智江 「石器」「殿山古墳・殿山遺跡」上尾市教育委員会 第6集
- ⑱ 塩野 博 「武藏野加納城跡」埼玉県遺跡調査会報告第2集
- 1980年
- ⑲ 埼玉県 「新編埼玉県史 資料編1」
- ⑳ 鈴木秀雄 「先土器時代」「ト伝」埼玉県遺跡調査報告書 第25集
- ㉑ 松井政信 「埼玉県上尾市殿山遺跡出土の先土器時代資料」石器研究1 石器研究会
- ㉒ 田中英司 「先土器時代」「足利遺跡」久喜市教育委員会
- 1981年
- ㉓ 烏羽政之 「先土器時代」「牛出塚遺跡」鴻巣市教育委員会報告第2集

1982年

- ④ 石器研究会編 「殿山遺跡」上尾市教育委員会 第11集

1983年

- ⑤ 西井幸雄 「先土器時代」「前原遺跡」宮代町教育委員会

- ⑥ 西井幸雄 「先土器時代」「さらら・帆立・馬込新屋敷・馬込大原」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第24集

- ⑦ 山下秀樹 「先土器時代」「久保山」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第29集

- ⑧ 青木義脩 「旧石器時代」「松木北遺跡・松木遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書第23集

- ⑨ 田代 治 「先土器時代」「鷺山遺跡」大宮市遺跡調査報告第6集

- ⑩ 上尾市教育委員会 「先土器時代」「前戸崎遺跡」上尾市文化財報告書 第17集

- ⑪ 梅原秀人 「旧石器」「西谷・和田南・大北・大間木内谷遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書 第25集

- ⑫ 梅原秀人 「旧石器」「北宿・馬場北・馬場東・馬場・小室山遺跡調査報告書」浦和市遺跡調査会報告書 第24集

1984年

- ⑬ 小倉 均 「旧石器時代」「松木遺跡（第2次）」浦和市東部遺跡群発掘調査報告第4集

- ⑭ 水村季行 「先土器時代」「赤羽・伊奈氏屋敷跡」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第31集

- ⑮ 田中英司 「先土器時代」「明花向・明花上ノ台・井沼方馬堤・とうのこし」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第35集

- ⑯ 橋本 勉 「先土器時代」「久台」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第36集

- ⑰ 西井幸雄 「石器」「閑戸足利」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第40集

- ⑱ 西井幸雄 「先土器時代」「向原・上新田・西浦」埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第41集

- ⑲ 上尾市教育委員会 「先土器時代」「天沼遺跡第1～3次調査」上尾市文化財調査報告 第21集

- ⑳ 与野市 「与野市史 資料編」

- ㉑ 石橋宏克 「石器」「吉場・西谷・宮前・大間大内谷、和田西遺跡発掘調査報告書」浦和市遺跡調査発掘調査報告書 第34集

- ㉒ 塩野博・菅谷浩之 「埼玉県鴻巣市城山発見ナイフ」若木考古62

- ㉓ 石井修 「大宮市砂町採集の旧石器」ふれいく5

研究紀要

1986

昭和61年8月20日 印刷

昭和61年8月25日 発行

発行 財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団
印刷 望月印刷株式会社